J

デジタルカメラ

EX-ZR20

取扱説明書

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

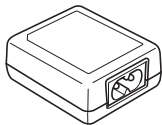
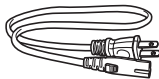
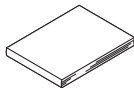
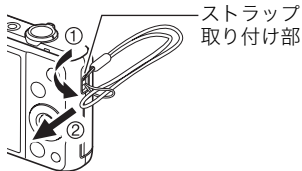
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊「クイックスタートガイド」の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ

ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記のWebサイトから登録手続きを行ってください。

http://casio.jp/reg/dc/

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がすべてそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、Photo Transport、YouTube Uploader for CASIOの使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

はじめにご覧ください(基本的な操作) 18

静止画を撮影する（応用） 47

動画を撮影する 76

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 87

よりよい撮影のための設定 112

静止画や動画を再生する 127

再生時のその他の機能(再生機能) 142

ダイナミックフォト機能 157

プリント（印刷）する 160

パソコンを利用する 169

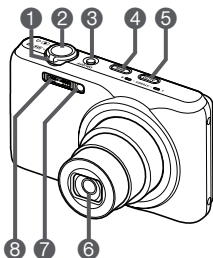
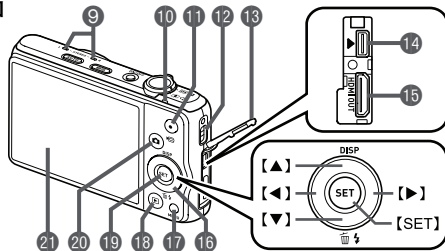
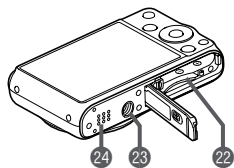
その他の設定について 191

■ 付録　203

各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを( )内に示します。

前面

後面

❶ズームレバー(38、66、136ページ)
❷シャッター(38ページ)
❸【ON/OFF】(電源)(35ページ)
❹【BS】(ベストショット)ボタン(71、87ページ)
❺【AUTO】ボタン(37ページ)
❻レンズ
❼前面ランプ(61、116ページ)
❽フラッシュ(52ページ)
❾マイク(78ページ)
❿後面ランプ(25、27、35、39、53ページ)
⓫【●】(ムービー)ボタン(76ページ)
⓬ストラップ取り付け部(2ページ)
⓭端子カバー(24、26、137、139、161、173、184ページ)
⓮【USB/AV】端子(24、26、137、161、173、184ページ)
⓯【HDMI OUT】HDMI output(ミニ)端子(139ページ)
⓰コントロールボタン(【▲】【▼】【◀】【▶】)(17、43、47、52、112ページ、)
⓱【MENU】ボタン(112ページ)
⓲【▶】(再生)ボタン(35、42ページ)
⓳【SET】ボタン(47ページ)
⓴【📷】(撮影)ボタン(35、37ページ)
㉑液晶モニター(14ページ)

底面

㉒電池／メモリーカード挿入部(21、32ページ)

㉓三脚穴

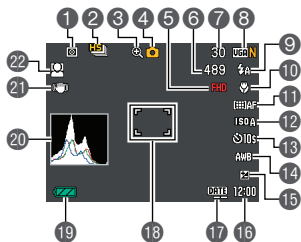
三脚に取り付けるときに使用します。

㉔スピーカー

液晶モニターの表示内容

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

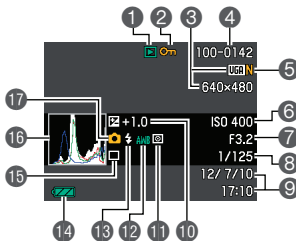
■ 静止画撮影時

1. 測光方式（125ページ）
2. 連写モード（71ページ）
3. 画像劣化表示／超解像ズーム（68ページ）
4. 撮影の種類（37ページ）
5. 動画画質（FHD/STD動画）（76、80ページ）／撮影速度（ハイスピード動画）（80ページ）
6. 静止画撮影可能枚数（73、228ページ）
7. 連続撮影可能枚数（パスト連写をしない場合は、連続撮影可能時間も表示されます。）（73ページ）
8. 静止画の画像サイズ／画質（49、122ページ）
9. フラッシュ（52ページ）
10. フォーカス方式（55ページ）
11. AFエリア（58ページ）
12. ISO感度（60ページ）
13. セルフタイマー（61ページ）
14. ホワイトバランス（62ページ）
15. 露出補正（64ページ）
16. 日付／時刻（30、196ページ）
17. タイムスタンプ（196ページ）
18. フォーカスフレーム（39、59ページ）
19. 電池残量表示（29ページ）
20. ヒストグラム（217ページ）
21. 手ブレ補正（115ページ）
22. 顔検出（116ページ）

参考

- 画面上に半透明のグレーの枠が表示されますが、これは動画撮影時の撮影範囲です。枠の内側の範囲が動画で撮影されます。
- 絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE（自動露出）が適正でない場合、シャッターを半押ししたとき、オレンジ色で表示されます。

■ 動画撮影時

❶動画アイコン(77ページ)
❷録音オフ(80ページ)
❸動画の残り時間(77ページ)
❹動画の撮影時間(77ページ)
❺動画撮影中(77ページ)
❻動画画質(FHD/STD動画)(76、80ページ)／撮影速度(ハイスピード動画)(80ページ)
❼電池残量表示(29ページ)

■ 静止画再生時

❶ファイル形態
❷プロテクト表示(150ページ)
❸静止画の画像サイズ(49ページ)
❹フォルダ名／ファイル名(188ページ)
❺静止画の画質(122ページ)
❻ISO感度(60ページ)
❼絞り値
❽シャッター速度
❾日付／時刻(196ページ)
❿露出補正(64ページ)
⓫測光方式(125ページ)
⓬ホワイトバランス(148ページ)
⓭フラッシュ(52ページ)
⓮電池残量表示(29ページ)
⓯連写モード(71ページ)
⓰ヒストグラム(217ページ)
⓱撮影の種類(37ページ)

■ 動画再生時

❶音声なし
❷ファイル形態
❸プロテクト表示(150ページ)
❹フォルダ名/ファイル名(188ページ)
❺動画の撮影時間(127ページ)
❻動画の撮影モード/画質/スピード
(76、80、80ページ)
❼YouTube(84ページ)
❽日付/時刻(196ページ)
❾電池残量表示(29ページ)

■ 連写画像再生時

❶表示中の画像番号/グループ内の画像総数
(130ページ)
❷連写グループアイコン(130ページ)
❸再生ガイド(130ページ)
❹連写速度(130ページ)

表示される内容を選ぶ(情報)

【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示や操作パネルの有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

情報表示あり、操作パネルあり	設定内容などの情報や、操作パネルを表示します。
情報表示あり、操作パネルあり、ヒストグラム付	設定内容や操作パネルなどの情報に加え、ヒストグラム(217ページ)が画面の左側に表示されます。また、動画残量表示と、動画画質アイコンが表示されます。 ヒストグラム
情報表示なし、操作パネルなし	設定内容などの情報や、操作パネルを表示しません。

- 動画撮影時は操作パネルが表示されません。また、情報表示の切り替えもできません。

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

このカメラに搭載されているさまざまな機能から、代表的な8つの機能を紹介します。

アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。本機には次の効果が搭載されています。
トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、
セピア、モノクロ、ミニチュア

→91ページ

HSナイトショット

複数の画像を連続撮影し、合成することで、フラッシュを使用せずに、暗い環境でも明るく撮影することができます。

→93ページ

プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影することができます。

→37ページ

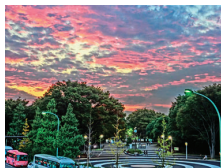
背景ぼかし

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影することができます。

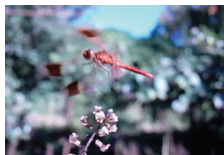
→94ページ

ワイドショット

複数の画像を連続して撮影し、つなぎ合わせることで、搭載されているレンズの制限（ワイド端）を上回る超広角画像を撮影することができます。35mmフィルム換算で焦点距離が約15mm、または19mmの広角画像を撮影することができます。

→96ページ

HDRアート／HDRアートムービー

露出の異なる連写画像を合成し、高精度な画像解析をもとに芸術的な作品を創り出すことができます。また、HDRアートの動画も撮影できます。

→103ページ

ハイスピード動画

最高1秒間に480コマ(480fps)の動画が撮影できます。通常目では見えない瞬間をスロー再生で見ることができます。

→80ページ

FHD動画撮影

高画質のFHD動画(1920×1080 pixels、30fps)が撮影できます。

→80ページ

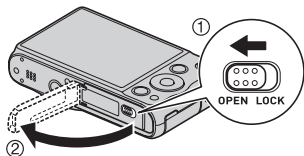
箱を開けたら、電池を充電する

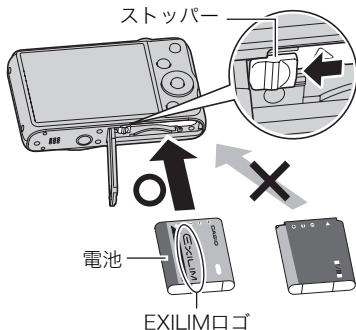
お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れた後に充電してください。

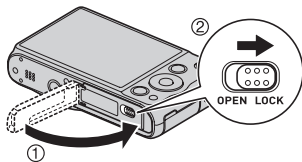
- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電池（NP-110）を電源として使用します（NP-110以外の電池は使用できません）。

電池を入れる

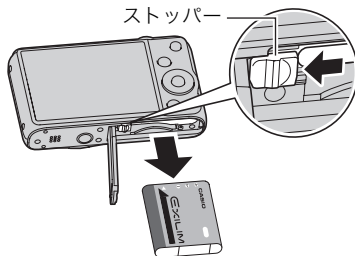
1. 電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

2. 電池を入れる

電池のEXILIMのロゴのある面を上（液晶モニター側）にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

電池を交換する

1. 電池カバーを開き、電池を取り出す

液晶モニターを上に向けた状態で、ストッパーを矢印方向へずらし、出てきた電池を引き抜きます。

2. 新しい電池を入れる

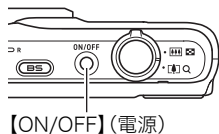
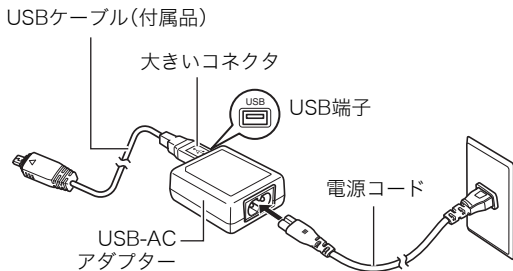
充電する

本製品は、以下の3つの方法で充電できます。

①USB-ACアダプター(AD-C53U)で充電する
②パソコンのUSB端子から充電する(付属のUSBケーブルを使用)
③専用充電器(BC-110L(別売品))で充電する

■ USB-ACアダプター(AD-C53U)で充電する

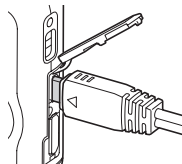
1. カメラの電源を切る

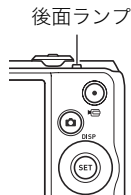
カメラの電源が入っているときは、必ず【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ってください。

2. 付属のUSBケーブルをUSB-ACアダプターに接続した後、電源コードを家庭用コンセントに接続する

3. USBケーブルをカメラに接続する

後面ランプが赤色に点灯し、充電を開始します。充電が完了すると、後面ランプが消灯します。

電池を使い切ってからすぐに充電した場合は、約3時間でフル充電されます。

カメラの▶マークとUSBケーブルの接続端子の◀マークが合うようにして差し込みます。

- 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間がさらに延びる場合もあります。また、充電時間が約6時間を越えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。
  また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、一度USBケーブルをカメラから抜いて、もう一度差し込んで充電しなおしてください。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／電池の異常(208ページ)／タイマーによる充電終了
消灯	充電完了

4. 充電が終わったらカメラからUSBケーブルを抜き、家庭用コンセントから電源コードを抜く

■ パソコンのUSB端子から充電する

充電する場合は、カメラに電池が入っている状態でパソコンに直接接続してください。

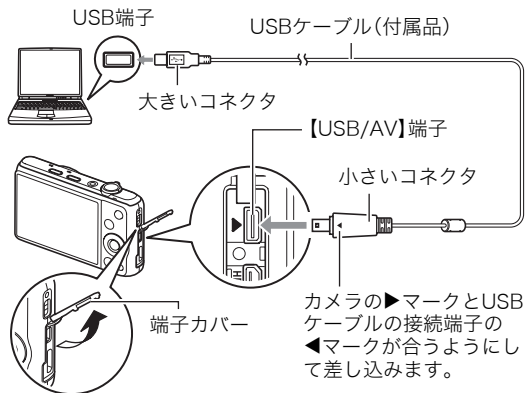
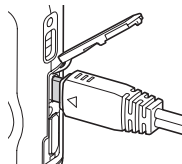
重要

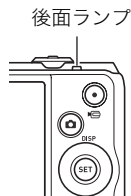
• 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

1. 【ON/OFF】(電源)を押してカメラの電源を切る

2. すでに電源の入っているパソコンのUSB端子にカメラを接続する

後面ランプが赤色に点灯します。しばらくすると、カメラの電源が自動的に入り、後面ランプがオレンジ色に点灯して充電を開始します。充電が完了すると、後面ランプが緑色に点灯します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始し、後面ランプが赤色に点灯します。この状態のまま充電が完了すると、後面ランプが消灯します。

- 長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が約6時間を越えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。フル充電できなかった場合はUSBケーブルを抜き差しし、再度充電してください。より早く充電を完了するためには、付属のUSB-ACアダプターで充電されることをおすすめします。また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は30分〜45分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅または消灯することがあります。その場合は、付属のUSB-ACアダプターで充電してください。

- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

後面ランプの動作

動作	内容
オレンジ点灯	充電中
赤点灯	充電中(このときパソコンとのデータ転送はできません。)
赤点滅/消灯	周辺温度の異常/電池の異常(208ページ)/タイマーによる充電終了
緑点灯	充電完了/充電停止

3. 充電が終わったら、カメラからUSBケーブルを抜き、パソコンからUSBケーブルを抜く

参考

- パソコンのUSB端子からの充電中にカメラの電源を切っても、充電は続きます。ただし、後面ランプの動作は25ページの「後面ランプの動作」と同じ動作に変わります。

重要

- パソコンが休止状態のときは充電できません。
- 充電を開始してからすぐに、またはしばらく経ってから、充電エラーが起こる場合があります。充電エラーが起こると、後面ランプが赤色に点滅します。
- パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始しますが、カメラの電源を入れると充電が停止し、パソコンとのUSB通信状態に移行します。このとき、後面ランプが緑色に点灯します。

■ 専用充電器(BC-110L(別売品))で充電する

充電池(NP-110)を直接充電できます。充電方法については、BC-110Lに付属の取扱説明書を参照ください。

約3時間でフル充電されます。

その他充電についてのご注意

- 充電池(NP-110)は本書指定の方法で充電してください。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されないことがあります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプター(AD-C53U)は本機以外には使用しないでください。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←→					少ない
電池残量表示	[緑]	→	[黄]	→	[赤]	→	[赤]
残量表示の色	水色	→	黄色	→	赤色	→	赤色

“[赤]”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“[赤]”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください（196ページ）。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては234ページをご覧ください。

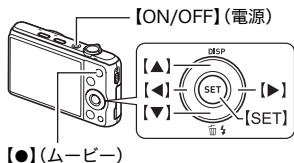
電池を長持ちさせるために

- エコモードに設定することで、省電力状態になります（191ページ）。
- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“[発光禁止]”（発光禁止）にする（52ページ）。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます（198、198ページ）。
- “コンティニュアスAF”を“切”にする（118ページ）。
- 不必要な（光学）ズーム操作を減らす。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

2. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間／24時間表示を切り替えるには、【●】(ムービー)を押します。

3. 日付／時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して"決定"を選び、【SET】を押す

日付／時刻を間違って設定した場合、上記の手順では直せません。196ページをご覧になり、設定し直してください。

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください(本機にメモリーカードは付属していません)。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる枚数については228ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

– SDメモリーカード(2GB以下)
– SDHCメモリーカード(2GB超〜32GB以下)
– SDXCメモリーカード(32GB超〜2TB以下)

- 使用できるメモリーカードの種類は2012年1月現在のものです。
- 記載されているメモリーカードの容量は規格上の数値です。
- SD規格に準拠したSDカードをお使いください。
- 本機では、Eye-Fiカードは使用できません。

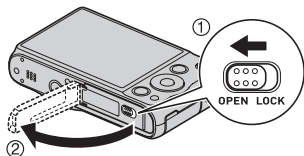
当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(http://casio.jp/support/dc/)をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

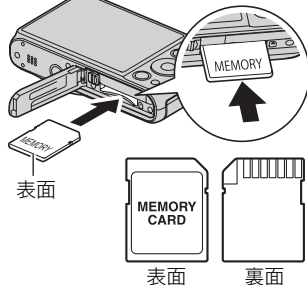
■ メモリーカードのご使用上の注意

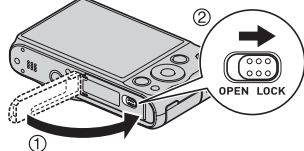
カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。コマ落ちしている場合は、画面に表示されている“●REC”が黄色になります。

メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

2. メモリーカードを入れる

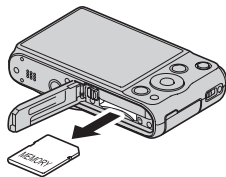
メモリーカードの表面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(31ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはフォーマットしてください。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

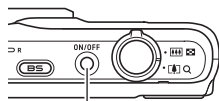
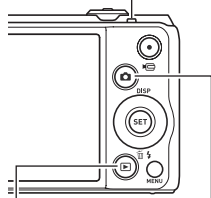
4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【ON/OFF】(電源)を押すと、撮影モードになり、撮影できる状態になります。

この状態で、【▶】(再生)を押すと再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます。(42、127ページ)

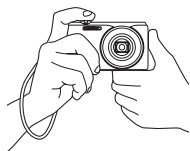
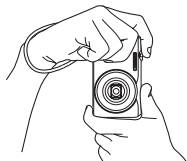
- 再生モード中に【📷】(撮影)を押すと、撮影できる状態に戻ります。
- レンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 【▶】(再生)を押して再生モードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能、オートパワーオフ機能(198、198ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。

■ 電源を切る

【ON/OFF】(電源)を押します。

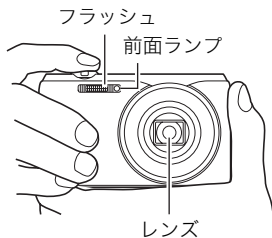
参考

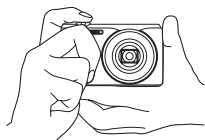
- 【📷】(撮影)を押して、電源を入れたり切ったりすることもできます(199ページ)。

カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えてください。図のように持ち、脇をしっかり締めてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。
- "縦横自動回転"の設定が"入"のときは、縦に持って撮影した画像は再生時に自動的に90度回転して表示されます(192ページ)。

重要

- フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写り込んだりする原因になります。

静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

オート	一般的なオート撮影モードです。
プレミアムオート PRO	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 • オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

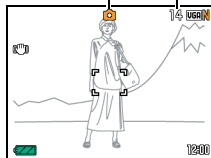
撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

- 再生モードになっているときは、【■】(撮影)を押してください。

2. 【AUTO】を押して、オート撮影モードを設定する

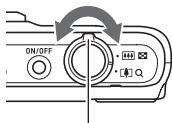
【AUTO】を押すたびに、"オート"と"プレミアムオート PRO"が交互に切り替わります。

オート撮影モードアイコン

撮影可能枚数（228ページ）

撮影する

1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオート PROで撮影しようとすると、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

- ズームの倍率を変更できます。

ズームレバー

[■]広角

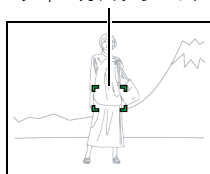
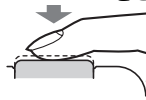
[■]望遠

カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

連写撮影が必要と判断された場合に“HS”が表示されます。手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと"ピピッ"と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

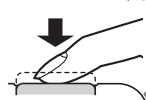
半押し

軽く押して止まるところまで

ピピッ(ピントが合います)

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し

最後まで

カシャッ(撮影されます)

動画を撮影するには

【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度【●】(ムービー)を押すと終了します。

詳しくは下記をご覧ください。

標準的な動画(STD動画)→76ページ
高精細な動画(FHD動画)→80ページ
ハイスピード動画(HS動画)→80ページ

人物の顔を美しく撮影する（メイクアップ）

プレミアムオート PROでの撮影では、メイクアップ機能により、人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。メイクアップレベルを"切"、"標準"、"強"の3つから設定することもできます。

1. プレミアムオート PROモードにする（37ページ）

---

2. 【SET】を押す

---

3. 【▲】【▼】で操作パネルの下から5番目の項目（メイクアップレベル）を選ぶ

---

4. 【◀】【▶】でメイクアップレベルを設定し、【SET】を押す

- メイクアップレベルは"切"、"標準"、"強"の3つから設定できます。

---

5. 撮影する

■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません（被写体との距離が近すぎるときなど）。カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にない場合は

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(57ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます("追尾"(58ページ))。

■ プレミアムオート PROで撮影するとき

- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
  - シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
  - インテリジェントAF(58ページ)
  - 顔検出(116ページ)
- プレミアムオート PROで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオート PROで撮影すると、"プレミアムオート高画質化の処理中です　しばらくお待ちください"と表示される場合があります。もし画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオート PROでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。
- "HS"が表示されたときは連写撮影になります。手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。
- フラッシュ(52ページ)の設定状態によっては、プレミアムオート PROで検出できる撮影環境が限定されます。

撮影した静止画を見る

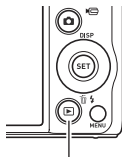
撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については127ページをご覧ください。
- 連写で撮影した画像については130ページをご覧ください。

1. 電源を入れ、【▶】(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(15ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(17ページ)。

【▶】(再生)

- ズームレバーを【[🔍]】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(136ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。

2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。

参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。
- 連写で撮影した画像については132ページをご覧ください。
- “🗑禁止”（199ページ）を“入”に設定すると、【▼】（🗑⚡）（消去）を押しても、消去メニューは表示されません。画像を消去したいときは、“🗑禁止”を“切”にしてください。

1ファイルずつ消去する

1. **【▶】（再生）を押して再生モードにしたあと、【▼】（🗑⚡）を押す**

2. **【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる**

3. **【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す**

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。
- 連写グループ（130ページ）を表示しているときは、表示中の連写グループ内にある全画像が消去されます。

選択したファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑 ⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で"選択ファイル消去"を選び、【SET】を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに赤枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイルの□にチェックが入ります。
- ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、【MENU】を押す

5. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順5で"いいえ"を選び、【SET】を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑 ⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で"全ファイル消去"を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、"ファイルがありません"と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質（122ページ）で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOS撮像素子の特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

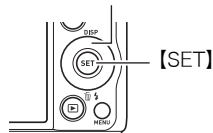
オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（57ページ）やマニュアルフォーカス（56ページ）で撮影してみてください。

静止画を撮影する(応用)

操作パネルを使う

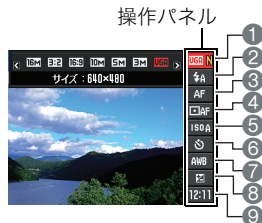
本機では、操作パネルを使って、撮影に関しての設定を変更することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選ぶ

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。※1

❶画像サイズ／画質※2 (49、122ページ)
❷フラッシュ(52ページ)
❸フォーカス方式 (55ページ)
❹AFエリア(58ページ)
❺ISO感度(60ページ)
❻セルフタイマー (61ページ)
❼ホワイトバランス (62ページ)
❽EVシフト(64ページ)
❾日付／時刻の表示 (65ページ)

※1 撮影モードによって、項目が変わります。
※2 操作パネル上では画質の切り替えはできません。

3. 【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ

4. 【SET】を押して決定する

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

- 続けて他の項目を選ぶときは、【SET】を押さずに【▲】【▼】で他の項目に切り替えます。
- 【AUTO】を押すと、操作パネルを閉じます。

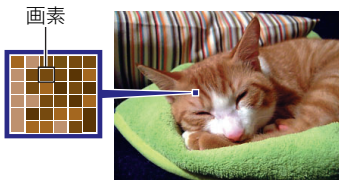
参考

- 操作パネルの各項目が下記のように設定されている場合、画面上に設定状態を示す各項目のアイコン(14ページ)は表示されません。設定を変更すると、画面上に設定状態を示すアイコンが表示されます。
  - フラッシュ:フラッシュオート
  - フォーカス方式:AF
  - AFエリア:スポット
  - ISO感度:AUTO
  - セルフタイマー:切
  - ホワイトバランス:オートWB
  - EVシフト:±0
- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます(112ページ)。

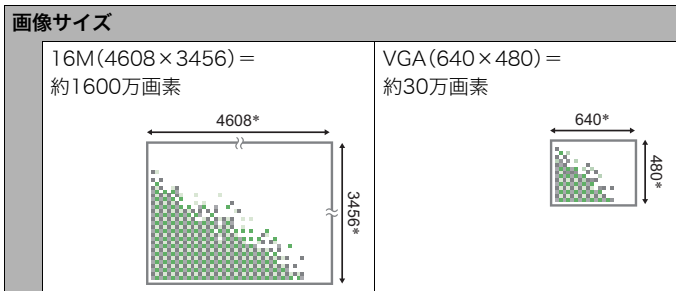
画像サイズを変更する（画像サイズ）

■ 画素について

デジタルカメラの画像は、小さな点（画素・pixels）の集まりでできています。

画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ（L版）へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。

■ 画像サイズについて

その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。

＊単位：画素

サイズを決める目安

画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

画素数が多い画像	精細だがデータ量が多くなる （ポスター用紙などに大きく印刷する場合などに適している）
画素数が少ない画像	粗いがデータ量は少ない （Eメールで画像を送る場合などに適している）

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→228ページ
- 動画の画像サイズについて→123ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする（リサイズ）→154ページ

■ 静止画の画像サイズを設定する

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番上の項目(静止画の画像サイズ)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

画素数(pixels)	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
16M(4608×3456)	ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(154ページ)しても画像が粗くなりにくいです。
3:2(4608×3072)	ポスタープリント	
16:9(4608×2592)	HDTVサイズ	
10M(3648×2736)	ポスタープリント	精細な画像が得られます。
5M(2560×1920)	A4プリント	
3M(2048×1536)	L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。
VGA(640×480)	Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

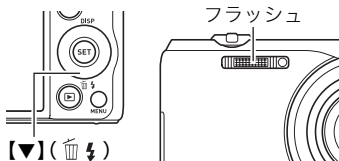
- お買い上げいただいたときは、16M(1600万画素・pixels)で撮影するように設定されています。
- 3:2を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

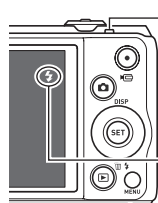
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- 一部機能では画像サイズの制限があります。

16M	"HSナイトショット"では選択できません。他のモードで"16M"を選んでいた場合は、"HSナイトショット"に切り替えると"10M"になります。
3:2、16:9	"高速連写"と"HSナイトショット"では選択できません。他のモードで"3:2"または"16:9"を選んでいた場合は、"高速連写"に切り替えると"16M"に、"HSナイトショット"に切り替えると"10M"になります。

フラッシュを使う(フラッシュ)

1. 撮影モードで【▼】(🗑 ⚡)を1回押す

2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

⚡A フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
⊘ 発光禁止	常に発光しません。
⚡ 強制発光	常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
◉ 赤目軽減	自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

3. シャッターを押して撮影する

後面ランプ
フラッシュ充電中は赤色に点滅します。
- 充電が完了して赤色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“ ”を表示

- フラッシュが届く範囲については、233ページをご覧ください。

重要

- フラッシュの発光面が汚れている場合、汚れがフラッシュの光に反応し、多少、煙や異臭が発生する場合がありますが故障ではありません。フラッシュの発光面に手の脂などの汚れが残ると落としにくくなりますので、こまめに乾いた柔らかい布などで、軽く拭き取ってください。

参考

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間（233ページ）は、使用条件（電池の状態や周囲の温度など）により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを“ ”（発光禁止）に設定してください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光（写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光）をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(フォーカス方式)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
		静止画	動画	静止画	動画
AF オートフォーカス	一般的な撮影	自動	自動※3	約5cm～∞(無限遠)(W端)※2	
マクロ	近くのものを撮影	自動	自動※3	約2cm～約50cm(W端から7段ズーム時)※2	
スーパーマクロ	近くのものを大きく撮影	自動	自動※3	約2cm～約50cm	
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせたい場合	手動		約5cm～∞(無限遠)(W端)※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。
※2 ピントが合う距離は光学ズームの位置で変わります。
※3 ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。

スーパーマクロについて

被写体にもっとも近寄って撮影できる状態に光学ズームを固定することにより、被写体をより近くで、より大きく撮影することができます。

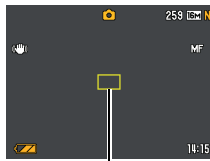
参考

- スーパーマクロに設定するとズーム状態は固定され、ズームレバーをスライドさせてもズームは作動しなくなります。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】（近く）【▶】（遠く）でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します（オートマクロ）。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します（オートマクロ）。
- 動画撮影時のオートマクロ機能は、撮影開始前は動作しますが撮影中は固定焦点となります。
- マクロ（接写）でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- オートフォーカス／マクロ／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。オートフォーカスの時のみオートマクロの範囲を含んだ距離の範囲を表示します。
  例：○○cm - ∞
  ※○○には数字が入ります。

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、“左右キー設定”で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(119ページ)。
- “顔検出”を使用している場合は、“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)となりますが、“フォーカス方式”を“AF”以外に切り替えると、“顔検出”は“切”となります。

フォーカスロックについて

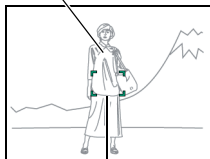
フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- AFエリアは、“AFスポット”または“AF追尾”にしておきます(58ページ)。

1. **ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする**

2. **シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす**

- AFエリアを“AF追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. **シャッターを最後まで押し込む**

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

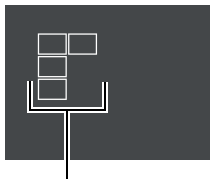
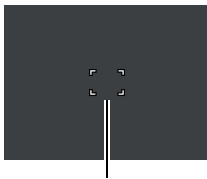
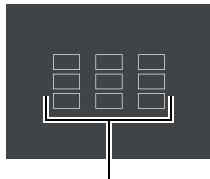
静止画撮影時のオートフォーカスの測定範囲を変更することができます。

• 動画撮影時の設定は"スポット"に固定になります。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目(AFエリア)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます(自動認識AF)。 • 顔検出(116ページ)も自動的に動作します。
スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(57ページ)を活用した撮影に便利です。
マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。
追尾	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

- フォーカス方式(55ページ)で"MF"(マニュアルフォーカス)を選んでいると、どのAFエリアを選んでもオートフォーカスは動作しません。
- 一部のベストショット撮影では、選んだAFエリアが使用できなかったり、選択できない等の制限があります。
- 顔検出機能の使用中は、"マルチ"は使用できません。

ISO感度を変える（ISO感度）

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から5番目の項目（ISO感度）を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

AUTO（オート）	撮影条件により自動調整します。		
ISO 80	感度が低い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる（ノイズが減る）
ISO 100	↑	↑	↑
ISO 200			
ISO 400			
ISO 800	↓	↓	↓
ISO 1600		シャッター速度が速い（暗い場所での撮影向き）	多少ざらつく（ノイズが増える）
ISO 3200	感度が高い		

- “AUTO”設定時のみ被写体ブレ補正（115ページ）が働きます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズが多少増えます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。

セルフタイマーを使う（セルフタイマー）

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる（撮影される）ようにすることができます。

1. **撮影モードにして【SET】を押す**

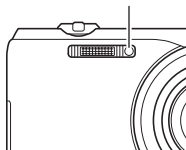
2. **【▲】【▼】で操作パネルの下から4番目の項目（セルフタイマー）を選ぶ**

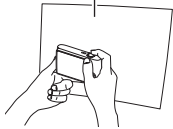
3. **【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す**

10秒	10秒後に撮影されます。
2秒	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3 （トリプルセルフタイマー）	10秒後に1枚、wその後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
切	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

前面ランプ

参考

- セルフタイマーが使用できない撮影機能
  高速連写でパスト連写を行っているとき、パストムービー、ぴったりショット、スライドパノラマ、ワイドショット
- トリプルセルフタイマーのみが使用できない撮影機能
  動画撮影、高速連写、プレミアムズーム、いち押しショット、HSナイトショット、YouTube、背景ぼかし

色合いを調整する(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの下から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

AWBオートWB	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光	晴天時の野外での撮影用
曇天	薄雲〜雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰	晴天時のビルや木の陰などの撮影用
N昼白色蛍光灯	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
D昼光色蛍光灯	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

電球	電球の雰囲気を消した撮影用
MWB マニュアルWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ① "MWB マニュアルWB"を選ぶ ②撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③【SET】を押す 白い紙 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

- "AWB オートWB"では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

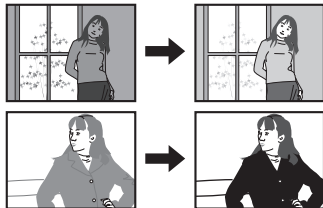
- 露出補正値:－2.0EV～＋2.0EV
- 補正単位:1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの下から2番目の項目(EVシフト)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で露出補正値を選ぶ

【▶】:＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

【◀】:－方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。

露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して"0.0"に合わせてください。

露出補正値

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は"0.0"に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

操作パネル上の日付／時刻の表示を変える

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番下の項目（日付／時刻の表示）を選ぶ

【◀】【▶】で日付または時刻の表示が選べます。

参考

- 日付は"表示スタイル"（197ページ）の設定により、「月／日」と「日／月」の2つから選ぶことができます。
- 時刻は、24時間制で表示されます。

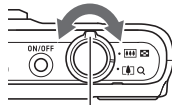
ズーム撮影する

本機のズームには光学ズーム、HDズーム、超解像ズーム(シングル超解像ズーム)、プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)、デジタルズームがあります。最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式
超解像ズーム(シングル超解像ズーム)	シングル超解像技術により画質の劣化を抑える方式(70ページ)
プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)	高速連写撮影を行い、画像を合成することで、超解像ズーム(シングル超解像ズーム)を超える領域まで画質の劣化を抑える方式(ベストショットで"プレミアムズーム"のシーンを選んだ場合のみ、プレミアムズームが有効になります。)(105ページ)
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式

1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる

広角

望遠

ズームレバー

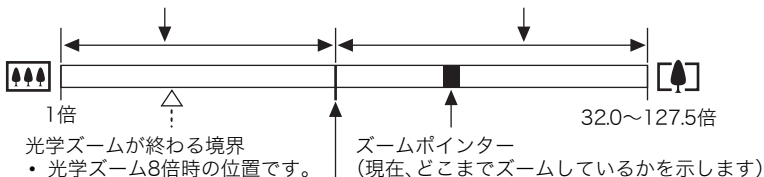
【広角】(広角):被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。
【望遠】(望遠):被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

2. シャッターを押して撮影する

参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中(ハイスピード動画を除く)も光学ズームの操作ができます。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。光学ズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- ワイドショット撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。

ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。

画質の劣化が始まる境界

- 画像サイズ、超解像ズームの設定やプレミアムズームの使用の有無によって境界の位置が変わります。
  – 超解像ズームが"切"の場合は8.0～57.6倍
  – 超解像ズームが"シングル"（シングル超解像ズーム）の場合は12.0～86.2倍
  – ベストショットが"プレミアムズーム"の場合は16.0～115.0倍

■ ズーム時のアイコンの変化について

ズーム倍率によって画面上に表示されるアイコンが変化します。

光学ズーム	表示されない
HDズーム	表示されない
超解像ズーム(シングル超解像ズーム)	SR(白)
プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)	SR(オレンジ)
デジタルズーム	⊕

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(49ページ)、超解像ズームの設定、ベストショットの"プレミアムズーム"の使用の有無(105ページ)によって異なります。

- ベストショットで"プレミアムズーム"のシーンを選んだ場合のみ、プレミアムズームが有効になります。

画像サイズ	画質の劣化を抑えることができる最大倍率			総合最大倍率
	超解像ズーム：切	超解像ズーム：シングル	プレミアムズーム	
16M	8.0倍	12.0倍	16.0倍	32.0倍
3:2	8.0倍	12.0倍	16.0倍	32.0倍
16:9	8.0倍	12.0倍	16.0倍	32.0倍
10M	10.1倍	15.1倍	20.2倍	40.4倍
5M	14.4倍	21.6倍	28.8倍	57.6倍
3M	18.0倍	27.0倍	36.0倍	71.8倍
VGA	57.6倍	86.2倍	115.0倍	127.5倍

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる（超解像ズーム）

超解像ズームには“シングル超解像ズーム”と“プレミアムズーム（マルチ超解像ズーム）”があります。シングル超解像ズームは、超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えながらズームの範囲を広げることができます。プレミアムズームは、高速連写撮影を行い、画像を合成することで、シングル超解像ズームを超える領域まで画質の劣化を最小限に抑えることができます。超解像ズームが有効な倍率の範囲については69ページをご覧ください。ここでは、シングル超解像ズームの設定方法を説明します。プレミアムズームについては105ページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選ぶ

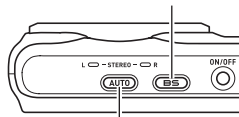
3. 【▲】【▼】で“超解像ズーム”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“シングル”（シングル超解像ズーム）を選び、【SET】を押す

参考

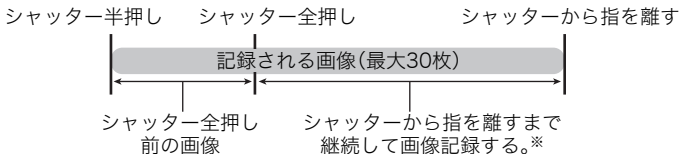
- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 超解像ズームでは、下記の機能は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、ベストショット撮影の一部

何枚も連続して撮影する(連写)

連続撮影を行うには、【BS】(ベストショット)を押して“高速連写”を選択してください。

参考

- 連続撮影モードから、1枚撮影モードに戻したいときは【AUTO】を押してください。

高速連写/パスト連写で撮影する

シャッターを全押ししている間、連続撮影をします。連写の速度は、3枚/秒、5枚/秒、10枚/秒、15枚/秒、30枚/秒のいずれかとなります。また、パスト連写では、シャッターの半押し中は、常に静止画を一時的に記録していますので、シャッターを全押しする前から全押し後に指を離すまで最大30枚まで連続撮影ができます。30枚の画像は、シャッター全押しの前後で振り分けて撮影できます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐのに利用できます。

※1回の撮影で記録できる画像は、シャッター全押し前の画像との合計で最大30枚です。

- 1回の撮影で記録できる最大枚数を設定することができます。設定値は5枚、10枚、20枚、30枚のいずれかです。
- シャッターの全押し前後で1秒間～10秒間までの連続撮影ができます。撮影できる最長の時間は連写の速度により決まります。連写の速度は3から30fpsまでの間で調節できます。

1秒間に30枚の速度で撮影する場合(30fps)	最長1秒間で30枚撮影可能
1秒間に3枚の速度で撮影する場合(3fps)	最長10秒間で30枚撮影可能

- 最大25枚までをシャッター全押し前までの連続撮影に割り当てることが可能です。
- シャッター全押し前に撮影できる画像の最小値は3枚です。撮影時間は連写fpsの設定により変わります。
- シャッターの全押し前に撮影できる画像は、0枚に設定可能ですが、この場合は、パスト連写撮影は行われません。また、メカニカルシャッターによる高速連写になります。

1. 撮影モードにして【BS】(ベストショット)を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"高速連写"を選び、【SET】を押す

- "HS"(高速連写)が表示されます。

3. 【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目(高速連写fps)を選ぶ

5. 【◀】【▶】で連写の速度(高速連写fps)を選ぶ

3~30枚(fps)	1秒間に何枚撮影できるか設定できます。

連写の速度

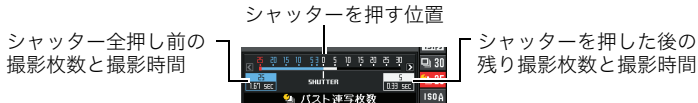
高速連写fps

6. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(最大連写枚数)を選ぶ

7. 【◀】【▶】で1回の撮影で記録する最大枚数を選ぶ

8. 【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目(パスト連写枚数)を選ぶ

9. 最大30枚の画像のうちで、何枚まで、またはどのくらいの時間をシャッター全押し前の撮影に割り当てるかを【◀】【▶】で選ぶ

- シャッター全押し前の撮影枚数と撮影時間を0にすると、パスト連写撮影は行われません。また、メカニカルシャッターによる高速連写になります。

10. 【SET】を押す

- 連続撮影できる枚数の目安が画面に表示されます。

連続撮影可能枚数(パスト連写をしない場合は、連続撮影可能時間も表示されます。)

静止画撮影可能枚数

30 151

11. シャッターを半押しして、パスト連写を開始する

シャッターを半押し中は、カメラ内に一時的にシャッター全押し前までの画像を設定時間分繰り返し記憶します。

- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。
- このとき、シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

12. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押し直前からの画像と現在の画像を記録します。シャッターを押し続けている間、連続撮影します。

13. シャッターから指を離すか、最大連写枚数で設定した枚数の画像が撮影されると撮影を停止する

参考

- 高速連写fpsを設定する場合は以下を参考にしてください。
  - 被写体の動きが速いときは、高速連写fpsを上げる。
  - 被写体の動きがそれほど速くないときは、高速連写fpsを下げる。
- 最大枚数を設定する場合は以下を参考にしてください。
  - 連写枚数が多いほど、撮影後の保存に時間がかかります。
- パスト枚数を設定する場合は以下を参考にしてください。
  - 撮りたい瞬間を知覚して、指がシャッターを押す動作が終了するまでの時間は、最低でも0.1秒から0.3秒はかかってしまうため、パスト時間が最低でも0.3秒以上になるようにパスト枚数を設定することをおすすめします。

連写時のご注意

- 連写時は、静止画の画質が自動的に"標準-N"となります。
- 連写時に残り枚数が少なくなってきた場合、残り枚数分撮影できない場合があります。メモリーカードに十分な空き容量がある状態で撮影してください。
- 高速連写では、露出／フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないでください。
- 高速連写では、フラッシュは自動的に"⊗"(発光禁止)となります。
- 連写中はズーム操作はできません。
- 高速連写では画像サイズを"3:2"、"16:9"に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、"16M"で撮影されます。
- 高速連写時は、メモリーカードに十分な空き容量があっても、1回あたりの最大連写可能撮影枚数が制限されます。

高速連写	最大連写枚数設定で設定した枚数

- メモリーカードの空き容量がこの撮影可能枚数容量よりも少ない場合は、撮影枚数が制限されたり、撮影できなかったりします。
- 連写では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
- パスト連写ではセルフタイマー機能が使用できません。
- プレミアムオート PROでは、連続撮影モードに切り替えることはできません。検出した撮影環境によって、自動的に連写します。
- 高速連写では超解像ズーム、プレミアムズームは使用できません。

動画を撮影する

ここでは、標準的な動画（STD動画）の撮影方法を説明します。

本機はプレミアムオート PRO（77ページ）での動画撮影に対応しています。他の動画撮影については下記をご覧ください。

高精細な動画（FHD動画）→80ページ

ハイスピード動画（HS動画）→80ページ

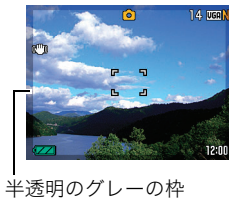
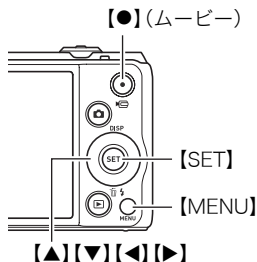
1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ

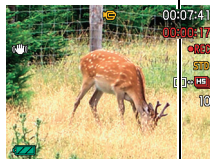
3. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“STD”（スタンダード）を選び、【SET】を押す

- 画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム／秒で撮影されます（STD動画）。画像サイズの変更はできません。
- 画面上に半透明のグレーの枠が表示されますが、これは動画撮影時の撮影範囲です。枠の内側の範囲が動画で撮影されます。

半透明のグレーの枠

5. 【●】(ムービー)を押す

撮影が開始され、液晶モニターに“●REC”が表示されます。
撮影中は音声(ステレオ)も録音されます。

撮影可能な残り時間
(229ページ)

撮影時間

6. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

プレミアムオート PROを利用した動画撮影

プレミアムオート PROに設定した状態(37ページ)で撮影すると、被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影することができます。撮影時には、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

- FHD動画とSTD動画の撮影のみで有効です。
- 動画のオートよりも電池寿命はやや短くなります。

ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(87ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます。たとえば、ベストショットの“緑を鮮やかに写します”を選んでから動画を撮影すると、森や草原の緑が鮮やかに撮影できます(一部のシーンでは動画撮影できません)。

動画撮影時の手ブレ軽減

FHD動画、STD動画(HDRアート動画を除く)では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます(115ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

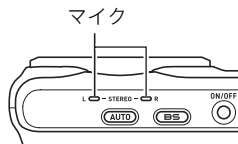
音声について

撮影中は音声(ステレオ)もマイクで録音されます。

- 本機では、動画撮影時の風の音を低減する機能(風音低減)を搭載しています(118ページ)。

■ 録音時のご注意

- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などでマイクをふさがないでください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にズーム操作を行うと、ズームやオートフォーカスの動作音が録音されることがあります。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。

- ムービーモードが"HS"の場合は、フレームレートが"30-120fps"または"30-240fps"の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。

- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があます。このとき、“●REC”が黄色になります。

参考

- 動画撮影中（ハイスピード動画を除く）もズームの操作ができます（66ページ）。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。光学ズームを使いたいときは、【●】（ムービー）を押す前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズーム、プレミアムズームは無効です（70、105ページ）。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- “フォーカス方式”を“AF”または“マクロ”にした場合、動画撮影中（ハイスピード動画を除く）は常時“コンティニュアスAF”が動作します（118ページ）。
- ハイスピード動画（HS120、HS240、HS480時）の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- “HS30-120”または“HS30-240”の30fpsでの撮影時はコンティニュアスAFが動作しますが、120fpsまたは240fpsに切り替わったときはその時点でフォーカス位置が固定されます。
- 動画（FHD、STD、ハイスピード）撮影中は、顔検出機能は無効となります。ただし、プレミアムオート PROの動画（FHD、STD）撮影中は、顔検出機能は動作します。
- 下記の機能では動画撮影はできません。
  HDR、プレミアムズーム、スライドパノラマ、いち押しショット、ぴったりショット、HS手ブレ補正、背景ぼかし、ワイドショット、HSナイトショット、アートショット（トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア）

高精細な動画を撮影する

本機は高精細な動画(FHD動画)が撮影できます。この動画はアスペクト比が16:9、画像サイズが1920×1080 pixels、フレームレートが30フレーム／秒になります。画質、画像サイズの変更はできません。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で"画質"を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"FHD"を選び、【SET】を押す

5. 通常の動画撮影と同様に撮影する(76ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

ハイスピード動画を撮影する

本機では最高480コマ／秒のハイスピード動画が撮影できます。動画のアスペクト比はフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります。

- フレームレートが"30-120fps"または"30-240fps"の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で"画質"を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で撮影速度(フレームレート)を選び、【SET】を押す

フレームレートを速く(480fps)すると画像サイズが小さくなります。

画質	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)
HS120	120fps	640×480
HS240	240fps	512×384
HS480	480fps	224×160
HS30-120	30-120fps	640×480
HS30-240	30-240fps	512×384

※fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。

5. 通常の動画撮影と同様に撮影する(76ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

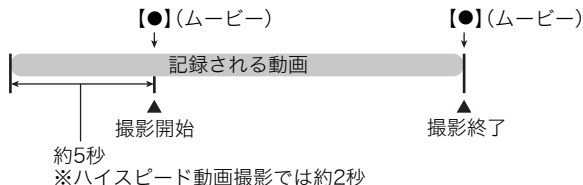
- ハイスピード動画(HS120、HS240、HS480時)の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- "HS30-120"または"HS30-240"の30fpsでの撮影時はコンティニュアスAFが動作しますが、120fpsまたは240fpsに切り替わったときはその時点でフォーカス位置が固定されます。
- "HS30-120"または"HS30-240"の撮影では、撮影前は30fpsに固定されます。撮影中のみ30fpsと120fps、または30fpsと240fpsのスピードに切り替えが可能です。30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。
  スピードの調節は、【◀】【▶】または【SET】を押して切り替えてください。

参考

- 撮影速度(フレームレート)が高くなるほど、撮影時の周囲の明るさが必要になります。ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- 動画の種類によっては、撮影中の画面が狭くなります。ハイスピード動画の撮影時は画面の上下左右に黒い帯が入ります。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。
- ハイスピード動画撮影時は、液晶モニターの表示内容の切り替えはできません。

撮影開始前のシーンも動画に記録する(パストムービー)

ベストショットのパストムービーを選択すると、パストムービーではカメラ内に常に過去の映像を一時的に記録していますので、撮影開始5秒前からの動画を記録することができます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐことができます。標準的な動画(STD動画)、高精細な動画(FHD動画)、ハイスピード動画(HS動画)のいずれのムービーモードでも、パストムービーの撮影が可能です。

- ハイスピード動画撮影では、撮影開始前の記録時間は2秒になります。

■ パストムービーの準備をする

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

---

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選ぶ

---

3. 【▲】【▼】で"画質"を選び、【▶】を押す

---

4. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選ぶ

---

5. 【SET】を押す

---

6. 【BS】(ベストショット)を押す

---

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"パストムービー"のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに""(パストムービー)が表示されます。

■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影を開始する

【●】(ムービー)を押す約5秒前(ハイスピード動画撮影時は約2秒前)から動画の撮影が始まっています。

2. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- “パストムービー”の撮影をやめて、静止画撮影ができる状態に戻すには、他のベストショットシーンを選ぶか(87ページ)、撮影モードを“[オート]”(オート)、または“[プレミアムオートPRO]”(プレミアムオート PRO)に切り替えてください(37ページ)。
- ハイスピード動画撮影の“HS30-120”または“HS30-240”でのパストムービー撮影では、過去の動画撮影記録時は、fpsの切り替えができません。【●】(ムービー)を押したあとは、fpsの切り替えができます。

参考

- パストムービーで動画撮影を開始する前は、シャッターを押しても、静止画撮影はできません。動画撮影中は静止画の撮影ができます(FHD動画/STD動画の場合のみ)。
- パストムービーでハイスピード動画を撮影するときは、“左右キー設定”を“EVシフト”や“ホワイトバランス”に設定していても、左右キーを押しても“EVシフト”や“ホワイトバランス”の設定を変更することはできません。これらの設定を変更する場合は、操作パネルから変更してください。

YouTube用の動画を撮影する(YouTube)

YouTube, LLC社が運営する動画サイトYouTubeに掲載するのに最適な動画データを、撮影することができます。標準的な動画(STD動画)、高精細な動画(FHD動画)、ハイスピード動画(HS動画)のいずれのムービーモードでも、YouTubeに掲載できる動画の撮影が可能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で“[ムービー]画質”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選ぶ

5. 【SET】を押す

6. 【BS】(ベストショット)を押す

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“YouTube”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに“YouTube”(YouTube)が表示されます。

8. 動画を撮影する

動画データは、メモリー内の「100YOUTB」という記録フォルダに保存されます。

- “YouTube”で撮影した動画ファイルを、パソコンで簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、YouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールしてください(178ページ)。
- “YouTube”撮影をやめて、静止画撮影ができる状態に戻すには、他のベストショットシーンを選ぶか(87ページ)、撮影モードを“◉”(オート)、または“◙”(プレミアムオート PRO)に切り替えてください(37ページ)。

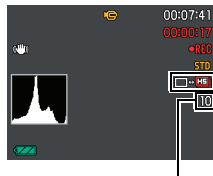
参考

- “YouTube”で撮影した動画は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(189ページ)。なお、このシーンでは、ムービーモードの設定(76ページ)で設定した画像サイズ、撮影速度、画質で撮影されます。
- “YouTube”では動画の撮影中、撮影前にかかわらず静止画の撮影はできません。
- 1回の撮影で保存できるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、再生時間が15分までです。撮影するムービーモードによって、1回の撮影での最大撮影可能時間は異なります(230ページ)。

動画撮影中に静止画を撮影する（スチルインムービー）

本機では動画撮影中でも静止画を撮影することができます。1枚撮影モードでは１枚ずつ撮影できます。また、連写撮影モードでは1回の撮影で約10fps（1秒間で約10枚）の速さで、最大7枚まで連写撮影可能です。1回の動画撮影中には合計で、最大28枚まで撮影可能です。

1. 動画撮影中に、シャッターを押す

- 連写撮影モードでは、シャッターを押し続けている間、連続撮影します。
- 静止画撮影中も動画撮影は途切れません。
- 動画撮影中のみ撮影モードを切り替えることができます。【◀】、【▶】、【SET】のいずれかを押すと、1枚撮影モードと連写撮影モードの切り替えができます。画面の“HS”が赤くなると連写撮影モードになり、“■”が赤くなると１枚撮影モードになります。

静止画撮影可能枚数

参考

- スチルインムービーでの撮影枚数は最大28枚までです。
- 動画撮影中の静止画撮影（スチルインムービー）では、フラッシュ撮影はできません。
- FHD動画、STD動画撮影時以外はスチルインムービーでの静止画撮影はできません。
- スチルインムービーでの静止画撮影ではピント合わせはできません。動画撮影時のピントと同じになります。
- FHD動画撮影中に撮影した静止画は、FHD動画より広い範囲で撮影されます。
- 静止画の画質は自動的に“標準-N”になります。
- スチルインムービーは“📷”（オート）で撮影されます。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 撮影シーンの例

人物を写します	風景を写します	HS夜景	HS夜景と人物

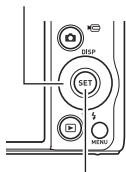
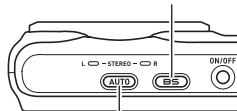
ベストショットで撮影する

1. 撮影モードにして【BS】(ベストショット)を押す

ベストショットのシーン一覧が表示されます。

【▲】【▼】【◀】【▶】

【SET】

【BS】(ベストショット)

【AUTO】

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと、別のシーン一覧が表示されます。
- 通常の静止画撮影に戻るには、【AUTO】を押してください。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る⟶ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する⟶【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る⟶【SET】

■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではなく、効果や効能を説明するためのイメージです。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 下記のベストショット撮影では、静止画撮影はできません。
  パストムービー、YouTube
- 下記のベストショット撮影では、動画撮影はできません。
  HDR、プレミアムズーム、スライドパノラマ、いち押しショット、ぴったりショット、HS手ブレ補正、背景ぼかし、ワイドショット、HSナイトショット、アートショット（トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア）
- 各ベストショットのシーンが選ばれているときの動画撮影は、FHD/STD動画撮影では各シーンに適した動画撮影となりますが、ハイスピード動画撮影では、選択されているシーンには依存せずオートでの動画撮影となります。
- 高速連写を応用したベストショットでは、"超解像ズーム"の設定は無効になります。
- 下記のベストショット撮影では、撮影環境によって撮影範囲が狭くなることがあります。
  HDR、HDRアート、HS夜景と人物、HSナイトショット

自分好みの設定を登録する（カスタム登録）

設定内容をベストショットに登録（最大999件）して、同じ設定で撮影することができます。

1. ベストショットのシーンで「BEST SHOT（新規登録）」のシーンを選び、【SET】を押す

2. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

3. 【▲】【▼】で"登録"を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、"マイベストショット"という名前が付きます。

参考

- 静止画のみ静止画用のベストショットのシーンとして登録できます。ただし、プレミアムオート PROやスチルインムービーで撮影した静止画は登録できません。動画の登録もできません。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順に、U1、U2･･･となります。
- 登録される設定内容
  顔検出、フォーカス方式、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュ、ISO感度、測光方式、ライティング、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」（静止画用）フォルダに保存されます（189ページ）。
- 内蔵メモリーをフォーマット（202ページ）すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。
- 登録したシーンを削除する場合は下記の手順で削除してください。
  ①シーンの説明画面（88ページ）から削除したいシーンを表示させる
  ②【▼】（🗑 ⚡）を押したあと"解除"を選び、【SET】を押す

いろいろな作風で撮影する（アートショット）

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。

シーン	内容
トイカメラ	周辺を暗くし、色合いを変えて、トイカメラ風に仕上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかして、やわらかく幻想的に仕上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めにして、上品で落ち着いた雰囲気に仕上げます。
ポップ	彩度を強調して、色彩豊かに仕上げます。
セピア	セピアカラーにしてレトロ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。
ミニチュア	一部をぼかして、ミニチュア模型を撮影したように仕上げます。

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュアの中から選んでください。

3. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目を選ぶ

選んだシーンの効果の強弱等が設定できます。

シーン	調節内容
トイカメラ	色合い
ソフトフォーカス	効果の強さ
ライトトーン	色合い
ポップ	効果の強さ
セピア	効果の強さ
モノクロ	効果の強さ
ミニチュア	ピントが合う位置

4. 【◀】【▶】で設定する

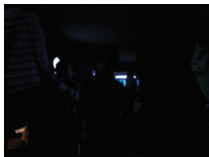
5. 【SET】を押す

6. シャッターを押して撮影する

参考

- 液晶モニター上で効果を確認しながら撮影することはできません。
- アートショットでは、"画質設定"や"撮影設定"のタブ内で下記の設定はできません。
  彩度、コントラスト、シャープネス、超解像ズーム

暗い場所でフラッシュを使わずに明るく撮影する（HSナイトショット）

複数の画像を連続撮影し、合成することで、フラッシュを使用せずに、暗い環境でも明るく撮影することができます。

フラッシュを発光させずに
“オート”で撮影

“HSナイトショット”で撮影

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. “HSナイトショット”を選び、【SET】を押す

3. シャッターを押して撮影する

- 手ブレと被写体ブレに注意して撮影してください。
- 液晶モニターで被写体が確認できる程度の明るさで撮影してください。

参考

- この機能での撮影では、“ISO感度”（60ページ）と“ISO感度上限”（124ページ）は“オート”に固定されます。
- この機能での撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- この機能での撮影では、画像サイズを“16M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。

背景をぼかした写真を撮影する（背景ぼかし）

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影することができます。また、ぼかし効果を三段階で調節することができます。

“オート”で撮影

“背景ぼかし”で撮影

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. “背景ぼかし”を選び、【SET】を押す

3. 【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目（ぼかし効果レベル）を選ぶ

5. 【◀】【▶】でぼかし効果レベルを設定し、【SET】を押す

- ぼかし効果レベルは“レベル1”、“レベル2”、“レベル3”の3つから設定できます。

6. シャッターを押して撮影する

- 被写体になるべく近寄って撮影してください。また、ぼかしたい背景と被写体との距離は、できるだけ離すようにしてください。この距離はズームの倍率によって異なります。

  例:ズームがW端の場合　被写体までの距離:30cm
  　　　　　　　　　　　被写体から背景までの距離:1m以上
- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- この機能での撮影では、"超解像ズーム"(70ページ)の設定は無効となります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に"⊛"(発光禁止)になります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図、被写体によっては、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラがぼかし処理できないと判断した場合、"ぼかし処理できませんでした"と表示されます。ぼかし処理できない場合でも画像は保存されます。

超広角画像を撮影する（ワイドショット）

複数の画像を連続して撮影し、つなぎ合わせることで、搭載されているレンズの制限（ワイド端）を上回る超広角画像を撮影することができます。35mmフィルム換算で焦点距離が約15mm、または19mmの広角画像を撮影することができます。

25mm（レンズのワイド端）

ワイド1（19mm）

ワイド2（15mm）

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

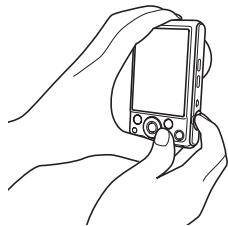
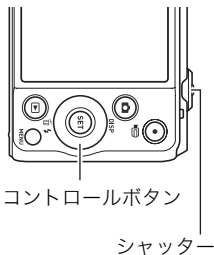
2. “ワイドショット”を選び、【SET】を押す

3. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目（ワイドレベル）を選ぶ

4. 【◀】【▶】で撮影したいワイドレベル（広角サイズ）を選び、【SET】を押す

“ワイド1（19mm）”と“ワイド2（15mm）”の2種類があります。“19mm”より“15mm”のほうが広く撮影できます。

5. コントロールボタンとシャッターの位置が下側になるように、カメラを縦に構える

- このときにレンズを地面（真下）に向けないでください。カメラ内部の縦横位置を感知するセンサーが誤動作し、撮影が開始できないことがあります。

6. 画像の中央にしたい被写体にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

- 画面上の外側の青い枠までが撮影できる範囲です。

撮影予定の画像

青い枠

撮影を始めるときの中央部分

7. **シャッターを全押しし、画面上に表示されるガイドと矢印に従って、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす**

- カメラを両手でしっかり持ち、ガイド表示に従って水平、垂直に体を中心に弧をえがくように、ゆっくりスライドさせて撮影してください。
  – 左右にスライドさせるときは、体を左右に平行移動するのではなく、体を軸にして左右に撮影してください。
  – 上下にスライドさせるときは、体を上下に平行移動するのではなく、肩を軸に上下に撮影してください。
  – 斜めにスライドさせたり、ゆれたりしないようにご注意ください。
- ガイド表示が終わるまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- “15mm”や“19mm”という画角を表す数値は、あくまで参考値であり、画角自体を保証するものではありません。
- ワイドショット撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- この機能では、画角が最大15mmまたは19mmの広角画像が撮影できますが、撮影状況によってはこの画角より狭くなることがあります。

- 以下の場合は、ワイドショット撮影に適していません。
  - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  - 主な被写体とカメラとの距離が近い
  - 動いている被写体
  - 高層ビルなど、高い建物を近くで見上げるような場合
- 以下の場合、ワイドショット撮影が中断されることがあります。
  - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
  - 撮影ルートから外れた場合
  - 指定された方向に撮影しなかった場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- 周囲が暗い状況で撮影した場合、画像がブレたり、撮影ができなかったりすることがあります。
- カメラは画面上の矢印の方向に同じ速度でゆっくり動かしてください。
- ワイドショット撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- 連写撮影がうまくいかなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 動いている被写体を撮影したとき、うまく画像を合成できない場合があります。
- 撮影距離が近い被写体を撮影したとき、うまく画像を合成できない場合があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”（発光禁止）になります。

デジタル処理で夜景をきれいに撮影する（HS夜景／HS夜景と人物）

手持ち撮影か三脚撮影かをカメラが自動的に判定し、手持ち撮影と判定されたときは1回のシャッターで連写をし、連写画像を自動的に合成してブレの少ない夜景撮影または夜景と人物撮影ができます。三脚と判定されたときは長時間露光の1枚撮影となり、さらにきれいに撮影できます。"HS夜景"の場合はフラッシュは発光禁止となり、フラッシュの設定を変更することはできません。人物を一緒に撮影したい場合は、"HS夜景と人物"を選んでください。"HS夜景と人物"ではフラッシュが"⚡A"（フラッシュオート）になります。

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. "HS夜景"または"HS夜景と人物"を選び、【SET】を押す

3. シャッターを押して撮影する

参考

- これらのベストショットシーンでの撮影時に、手持ち撮影を行うときは連写撮影となりますので、被写体はできるだけ動かないようにしてください。
- "HS夜景と人物"では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- 三脚にセットしてあっても揺れがある場合は、手持ちと判定されることがあります。
- "HS夜景"または"HS夜景と人物"では、周囲が極端に暗い場合、露出不足により適正な明るさで撮影できないことがあります。
- この機能での撮影では、"ISO感度"（60ページ）と"ISO感度上限"（124ページ）は"オート"に固定されます。

デジタル処理で手ブレ補正をする（HS手ブレ補正）

1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、光学手ブレ補正で補正できないような場面でも手ブレが軽減された撮影ができます。

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. “HS手ブレ補正”を選び、【SET】を押す

3. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“⊛”（発光禁止）になります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたりするときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”（60ページ）と“ISO感度上限”（124ページ）は“オート”に固定されます。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の画像を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

2. "HDR"を選び、【SET】を押す

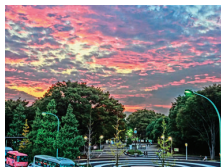
3. シャッターを押して撮影する

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に" "(発光禁止)になります。
- この機能の撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で芸術的な写真や動画を撮影する（HDRアート）

HDR撮影（102ページ）を応用した従来の映像表現を超えた写真や動画が撮影できます。また、本機ではアート効果の強さを調節することができます。

通常撮影時の画像

HDRアートで撮影した画像

静止画を撮影する

1. 撮影モードにして、【BS】（ベストショット）を押す

2. "HDRアート"を選び、【SET】を押す

3. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目（アート効果）を選ぶ

4. 【◀】【▶】でアート効果の強さを選ぶ

レベル1	弱
レベル2	標準
レベル3	強

5. 【SET】を押す

6. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に"⊛"(発光禁止)になります。
- この機能の撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

動画を撮影する(HDRアートムービー)

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

2. "HDRアート"を選び、【SET】を押す

3. 通常の動画撮影と同様に撮影する(76ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

重要

- この機能での撮影では、撮影状況によって音声と映像がずれることがあります。
- 動画では"アート効果"の設定は反映されません。

参考

- このベストショット撮影での"🎥画質"の設定は"HD"または"STD"のみとなります(123ページ)。
- 他のモードで"🎥画質"が"STD"以外で設定されていた場合は、"HD"で撮影されます。

ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する(プレミアムズーム)

マルチ超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます(プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム))。

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

2. "プレミアムズーム"を選び、【SET】を押す

3. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- この機能での撮影では、"超解像ズーム"(70ページ)の設定は無効となります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に"🚫"(発光禁止)になります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。
- この機能での撮影では、"ISO感度"(60ページ)は"ISO3200"に設定することはできません。

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を作成することができます。

- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
  スライド方向が右/左方向の場合:最大11520×1080 pixels
  スライド方向が上/下方向の場合:最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

---

2. "スライドパノラマ"を選び、【SET】を押す

---

3. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目(スライド方向)を選ぶ

---

4. 【◀】【▶】でスライド方向(カメラを動かす方向)を選び、【SET】を押す

スライド方向は、右/左/上/下の4種類があります。

---

5. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

6. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端（スライド方向が右の場合は右端）に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

スライドカーソル

参考

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
  – 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  – 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  – 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  – 主な被写体とカメラとの距離が近い
  – 動いている被写体
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  – カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。

- 周囲が暗い状況で撮影した場合、画像がブレたり、撮影ができなかったりすることがあります。
- カメラは画面上の矢印の方向に同じ速度でゆっくり動かしてください。
- カメラは画面に表示される矢印に対して、できる限り平行に動かしてください。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- 連写撮影がうまくいかなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 動いている被写体を撮影したとき、うまく画像を合成できない場合があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“⊛”(発光禁止)になります。

撮りたい瞬間により近い画像を撮影する(ぴったりショット)

撮りたい瞬間にシャッターを押しても、シャッターを押す動作が遅れてしまい、その瞬間が撮影できないことがあります。"ぴったりショット"を使うことで撮りたい瞬間により近い画像を撮影することができます。"ぴったりショット"では、シャッターを半押しして構え、そこから撮りたい瞬間にシャッターを全押しすると、その時点の静止画とその前の静止画が4枚一時的に記録されます。その後、液晶モニターで保存したい1枚を選ぶことができます。

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

---

2. "ぴったりショット"を選び、【SET】を押す

---

3. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しする

カメラ内に一定の時間静止画を一時的に記録します。

- このとき、シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

---

4. シャッターを全押しして撮影する

撮影が終わると、保存する予定の画像が3秒間表示されます。

---

5. 他の候補(画像)を見たいときは、撮影した画像が表示されてから3秒以内に【SET】を押す

3秒以内に【SET】を押さないと、手順4で表示された画像が保存されます。

6. 【◀】【▶】で保存したい画像を表示させる

【◀】【▶】で保存する画像を下記の順で表示できます。

−0.4sec. ↔	−0.3sec. ↔	−0.2sec. ↔	−0.1sec. ↔	SHUTTER
（0.4秒前）	（0.3秒前）	（0.2秒前）	（0.1秒前）	（シャッター全押し時）

- ここで選んだ画像によって、次回撮影時に手順4で表示される画像が決まります。ここで0.3秒前の画像を選んだときは、次回撮影時に、手順4で0.3秒前の画像が表示されます。

7. 【SET】を押す

表示されている画像を保存します。

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“⊛”（発光禁止）になります。
- この機能での撮影では、セルフタイマーは無効になります。
- フォーカスや露出はシャッターを半押ししたときの値で固定されます。
- シャッターを半押ししないで全押しした場合や、半押しの時間が十分でない場合（0.4秒以下）は撮影できません。
- 被写体に対する注意がそれているようなときは、撮りたい瞬間からシャッターを全押しするまでの時間が大幅に延びてしまうことがあるため、その場合はこの機能を使っても遅れてしまうことがあります。
- この機能の撮影では、“撮影レビュー”（120ページ）の設定は無効となり、シャッター全押し直後は常に画像を表示します。

良い顔の画像だけ撮影する(いち押しショット)

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します。

1. 撮影モードにして、【BS】(ベストショット)を押す

2. "いち押しショット"を選び、【SET】を押す

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に"⊛"(発光禁止)になります。
- 連写した画像が全てブレた画像の場合は、ブレた画像が保存されてしまいます。
- 以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされませんので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存されるときがあります。
  - 顔の一部、もしくは全面が、影などの影響で暗くなっている場合
  - 髪の毛が、目に被っている、もしくは接近している場合
  - 眼鏡をかけている場合
  - 顔が小さい場合
  - 顔が正面を向いていない場合
- 撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。

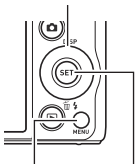
- メニュー画面で操作できる機能の一部は、操作パネル(47ページ)からも設定できます。両方で設定できる機能については、操作パネルからの操作方法を別途記載していますので、該当するページをご覧ください。

メニュー操作を覚える

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。

2. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

例:"撮影設定"タブ、"セルフタイマー"選択時

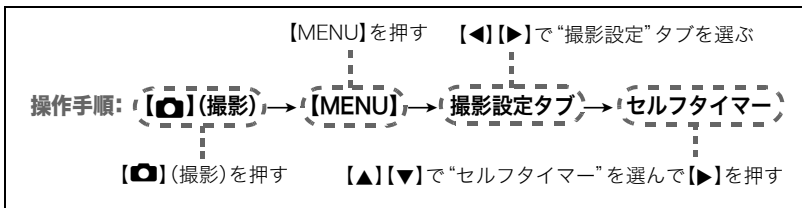
5. 【SET】を押して決定する

- 【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。
- 他のタブを選ぶときは、【◀】を押したあと【▲】でタブの位置に戻り、【◀】【▶】で切り替えます。
- 【MENU】を押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

重要

- オート撮影モード(37ページ)をプレミアムオート PROに設定すると、一部のメニューは使用できなくなります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「メニュー画面の操作例」(112ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。

撮影設定について（撮影設定）

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる（超解像ズーム）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→超解像ズーム

詳しくは70ページをご覧ください。

ピントの合わせ方を変える（フォーカス方式）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→フォーカス方式

詳しくは操作パネルからの操作方法（55ページ）をご覧ください。

セルフタイマーを使う（セルフタイマー）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→セルフタイマー

詳しくは操作パネルからの操作方法（61ページ）をご覧ください。

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ補正)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→手ブレ補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ補正の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

入	手ブレ、被写体ブレを軽減します。
切	ブレ軽減は行いません。
手ブレDEMO	シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、実際に撮影することはできません。

参考

- FHD動画/STD動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- ハイスピード動画撮影時は手ブレ補正機能は動作しません。
- "入"に設定時は、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません(撮影直後の画像確認画面に表示されます)。
- "入"で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。"手ブレ補正"の設定を"切"に設定してください。

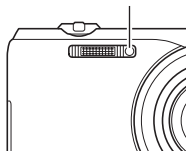
オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→AFエリア

詳しくは操作パネルからの操作方法(58ページ)をご覧ください。

ピント合わせを補助するライト(AF補助光)

操作手順:【】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは"切"に設定することをおすすめします。

重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

操作手順:【】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→顔検出

人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

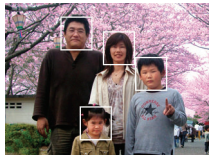
1. 【▲】【▼】で"入"を選び、【SET】を押す

2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

4. シャッターを全押しして撮影する

よりよい顔検出撮影のために

- 顔が検出できない場合は、中央にピントを合わせます。
- フォーカス方式は必ずオートフォーカス(AF)となります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
  - 顔の一部が頭髪、サングラス、帽子などでさえぎられている人物、または顔に濃い影が落ちている人物
  - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
  - 距離が遠すぎて顔が小さすぎる人物、または距離が近すぎて顔が大きすぎる人物
  - 極端に暗い場所での人物
  - ペットなど人物以外の被写体

重要

- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
  - ベストショットの一部
  - 動画撮影(ハイスピード動画撮影を行う一部のベストショットを含む)
  - 高速連写でパスト連写を行っているとき(高速連写撮影を行う一部のベストショットを含む)
- "顔検出"を使用すると"フォーカス方式"は必ず"AF"(オートフォーカス)に固定されます。"フォーカス方式"を切り替えたいときは"顔検出"を"切"にしてください。

常にオートフォーカスを動作させる（コンティニュアスAF）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→コンティニュアスAF

“入”にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- シャッターを半押しする前は画面の中央にピントを合わせ続けます。

デジタルズームを設定する（デジタルズーム）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→デジタルズーム

デジタルズーム（66ページ）を使用したいときは“入”にしてください。

- 下記の撮影では、デジタルズームは使用できません。
  - ハイスピード動画撮影中

動画撮影時の風の音を低減する（風音低減）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→風音低減

動画撮影時に録音される風の音を低減したいときは“入”にしてください。ただし、音質が多少変化します。

左右キーに機能を割当てる(左右キー設定)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→左右キー設定

【◀】【▶】キーに以下の7つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます(キーカスタマイズ)。

AF→🌷→🌷S	ピントの合わせ方を変える→55ページ • ただし、"MF"(マニュアルフォーカス)は選択できません。
測光方式	光の測りかたを変える→125ページ
セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する→61ページ
顔検出	顔検出の入/切→116ページ
ISO感度	ISO感度を変える→60ページ
ホワイトバランス	色合いを調整する→62ページ
EVシフト	明るさを補正する→64ページ
切	【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

撮影時、液晶モニターに基準線を表示する(グリッド表示)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→グリッド表示

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。"入"にするとグリッドを表示します。

撮影直後の画像を表示する（撮影レビュー）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→撮影レビュー

“入”にすると、撮影直後の画像が約1秒間表示されます。

- 撮影レビューは1枚撮影時に有効となります。連写時は機能しません。
- “撮影レビュー”を“入”にした場合、一部の機能での撮影では、シャッターを押したあとに“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示され、メッセージ表示中は撮影できなくなります。処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

アイコンの意味を確認できる機能

- 撮影の種類
- 左右キー設定で設定できる項目
- シャッター半押し時の露出警告

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→モードメモリ

"入"にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。"切"にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切(初期設定)	入
ベストショット	HDR	最後の状態
フラッシュ	オート	
フォーカス方式	AF(オートフォーカス)	
ISO感度	AUTO	
ホワイトバランス	オートWB	
EVシフト	0.0	
AFエリア	スポット	
測光方式	マルチ	
セルフタイマー	切	
フラッシュ光量	0	
超解像ズーム	シングル	
デジタルズーム	入	
MF位置	MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置	
ズーム位置※	ワイド端	

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

画質設定について（画質設定）

静止画サイズ

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→サイズ

詳しくは操作パネルからの操作方法（49ページ）をご覧ください。

静止画の画質を設定する（▣画質）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→▣画質（静止画）

高精細-F	画質を優先
標準-N	標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、"高精細-F"にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります（228ページ）。

動画の画質を設定する（画質）

操作手順：【】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→画質（動画）

動画の画質と撮影方法を設定することができます。

FHD	高精細な動画（FHD動画）を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります（80ページ）。
HD	高精細な動画（HD動画）を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります。 • "HDRアート"（104ページ）での撮影時のみ"FHD"の代わりに"HD"が選択できます。
STD	標準的な動画を撮影するときに選びます。アスペクト比が4:3、画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム／秒で撮影されます（STD動画）。画像サイズの変更はできません（76ページ）。
HS120 **HS240** **HS480** **HS30-120** **HS30-240**	ハイスピード動画を撮影するときに選びます。動画の画像サイズはフレームレート（動画の撮影速度）によって異なります（80ページ）。

明るさを補正する（EVシフト）

操作手順：【】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→EVシフト

詳しくは操作パネルからの操作方法（64ページ）をご覧ください。

ISO感度を変える(ISO感度)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ISO感度

詳しくは操作パネルからの操作方法(60ページ)をご覧ください。

ISO感度の上限を設定する(ISO感度上限)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ISO感度上限

設定	内容
オート	"ISO感度"(60ページ)の設定のとおりのISO感度で撮影されます。
ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600 ISO 3200	"ISO感度"(60ページ)の設定が"AUTO(オート)"の場合、ここで選んだISO感度が上限となります。

参考

- "ISO感度"(60ページ)の設定が"AUTO(オート)"以外の場合は"ISO感度上限"の設定は無効となり、"ISO感度"で選択した設定で撮影されます。
- "HSナイトショット"(93ページ)では下記の中からの設定になります。
  オート、ISO1600、ISO3200、ISO6400、ISO12800
- 下記の撮影では、"ISO感度上限"は設定できません。
  背景ぼかし、スライドパノラマ、ワイドショット、HS夜景、HS夜景と人物、HS手ブレ補正

色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ホワイトバランス

詳しくは操作パネルからの操作方法(62ページ)をご覧ください。

光の測りかたを変える(測光方式)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→測光方式

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

マルチ	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
中央重点	中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
スポット	センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ライティング

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

入	明るさが補正されます。ただし撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	明るさの補正は行いません。

フラッシュの明るさを変える(フラッシュ光量)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→フラッシュ光量

+2(フラッシュの明るさが最も強い)から−2(フラッシュの明るさが最も弱い)までの5段階から選べます。

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

鮮鋭さを変える(シャープネス)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→シャープネス

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から−2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→彩度

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から−2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→コントラスト

+2(明暗の差がもっとも大きい)から−2(明暗の差がもっとも小さい)までの5段階から選べます。

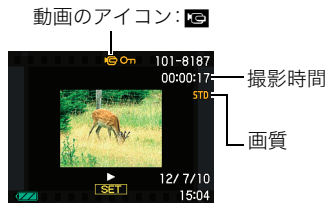
静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については42ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したい動画(ムービー)を表示させる

2. 【SET】を押して、再生を始める

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】 • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 • 通常の再生に戻るときは【▼】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】 • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】を押したのち【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)

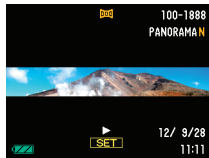
ハイスピード動画の再生中に通常の動画の再生速度にする	【AUTO】 • 再度【AUTO】を押すと、もとのスロー再生の速度にもどります。ただし、"HS30-120"、"HS30-240"で撮影した画像はできません。
拡大する	ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライド • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】

• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

撮影したパノラマ画像を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいパノラマ画像を表示させる

2. 【SET】を押して、パノラマ画像を再生する

パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。

再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】(スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】【▼】(スライド方向が上方向、下方向の場合) • 押し続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】

• パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
  ダイナミックフォト、ムービーへ変換、モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ、ライティング、ホワイトバランス、明るさ編集、回転表示

連写した静止画を見る

本機では、1回の連写で撮影した複数の画像は1つのグループにまとまった形（連写グループ）で再生されます。

1. 【▶】（再生）を押して、【◀】【▶】で再生したい連写グループを表示させる

2. グループを表示させた後、約1秒経過すると自動的にグループ内の連写画像が高速で再生される

- グループ内の連写画像が最後まで再生されると、元の連写グループ表示に戻ります。
- この状態では連写画像を1枚1枚コマ送りやコマ戻しをしたり、再生速度を変えることはできません。この状態で【SET】を押すと、再生の一時停止や再生スピードの調整、再生方向の変更、1枚ごとのコマ送りやコマ戻し、連写画像の拡大・縮小、1枚ごとの消去が可能になります。

【SET】を押したあとの操作について

【◀】【▶】	再生中は再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し • 画像の拡大中は再生スピードの調整はできません。
【SET】	一時停止、再生の切り替え
ズームレバー	拡大、縮小 • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 拡大していないときにズームレバーを【】（）側にスライドさせると、この連写グループ内の画像を一覧表示します。
【MENU】	連写グループの再生終了
【▲】(DISP)	情報表示の切り替え
【▼】	連写フレーム編集メニューの表示

連写画像の消去

再生中または一時停止中に消去できます。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

---

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び【SET】を押す

---

3. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

---

4. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順3〜4を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

■ 選択したファイルを消去する

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

---

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び【SET】を押す

---

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム消去”を選び、【SET】を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに赤枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイル左下の□にチェックが入ります。
- ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

5. 消去したいファイルの選択が終了したら、【MENU】を押す

6. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順6で"いいえ"を選び、【SET】を押してください。

■ 連写グループ内のすべてのファイルを消去する

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

"連写フレーム編集"のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で"消去"を選び【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で"グループ内全消去"を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

連写画像をグループ解除する（連写グループ解除）

グループ内の画像を通常の静止画のように1枚ずつの画像にできます。

■ 1グループずつグループ解除する

1. 連写グループ表示中、または連写グループ内の画像の自動再生中に【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で"再生機能"タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で"連写グループ解除"を選び、【▶】を押す

4. 【◀】【▶】でグループ解除したい連写グループを表示する

5. 【▲】【▼】で"解除"を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを解除する場合は手順4～5を繰り返します。

■ すべてのグループを解除する

重要

- 一度、連写グループを解除すると再グループ化はできません。

1. 連写グループ表示中、または連写グループ内の画像の自動再生中に【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で"再生機能"タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で"連写グループ解除"を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"全グループ解除"を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

連写画像をコピーする(コピー)

連写画像内の画像を1枚ずつ選んでグループ外にコピーすることができます。

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

"連写フレーム編集"のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で"コピー"を選び【SET】を押す

3. 【◀】【▶】でグループ外にコピーしたいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で"コピー"を選び、【SET】を押す

参考

- 連写グループ内の静止画は下記の機能が使用できません。"コピー"で1枚の静止画として保存してから下記の機能をご使用ください。
  ホワイトバランス、明るさ編集、トリミング、回転表示、リサイズ

画像を拡大して表示する

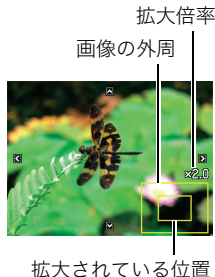
1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【[▲▲▲]】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【MENU】を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

拡大倍率
画像の外周
×2.0
拡大されている位置

- 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。ただし、この機能は連写した画像や動画では使用できません。また、拡大した状態での【◀】【▶】では連写した画像、動画が表示されません。

画像を一覧表示する

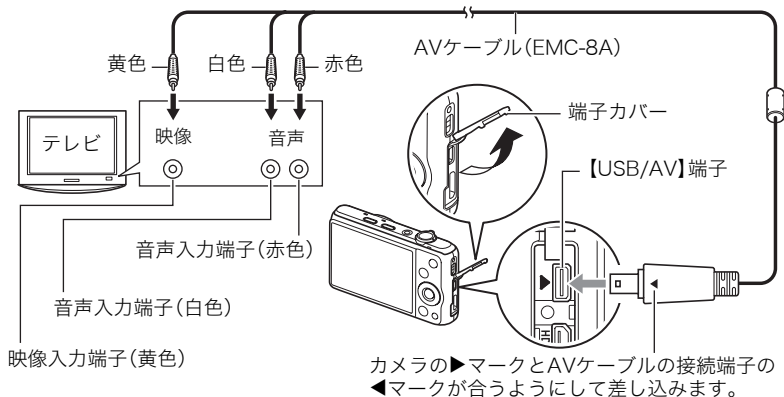
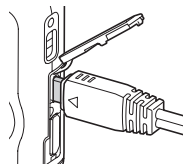
1. 再生モードにしてズームレバーを【[▲▲▲]】(▦)側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。通常表示（1枚表示）で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

- 動画や連写した画像は先頭の画像が表示されます。

テレビで静止画や動画を見る

1. 別売品のAVケーブル(EMC-8A)でカメラとテレビをつなぐ

AVケーブル(EMC-8A)
黄色
白色
赤色
テレビ
映像
音声
端子カバー
【USB/AV】端子
音声入力端子(赤色)
音声入力端子(白色)
映像入力端子(黄色)
カメラの▶マークとAVケーブルの接続端子の◀マークが合うようにして差し込みます。

- AVケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

2. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 電源を入れ、【▶】(再生)を押す

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

- 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更できます(200ページ)。

4. 以後、カメラで再生の操作を行う

重要

- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

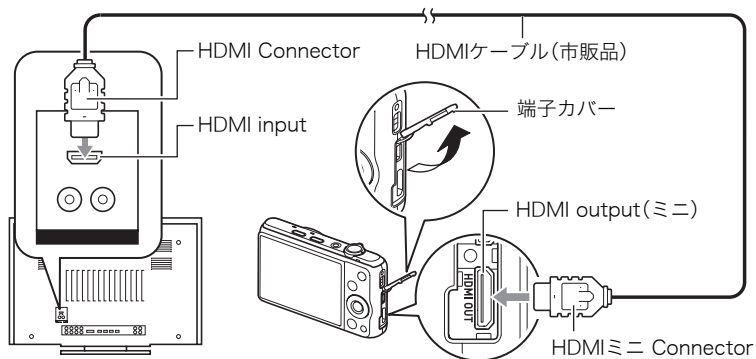
参考

- 音声はステレオになります。
- お使いのテレビによっては、映像や音声が正常に出ないことがあります。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。また、【▲】(DISP)で表示内容を切り替えることもできます。
- 撮影時にテレビにカメラを接続すると、液晶モニターの表示が消え、テレビに映像が表示されます。ただし、“ワイドショット”(96ページ)の撮影時のみ、映像はテレビには表示されず、液晶モニターに表示されます。いずれの状態でも撮影は可能です。

ハイビジョンテレビで高画質で見たいときは

市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぎます。再生の方法は138ページの手順2以降の操作をご覧ください。

- HDMIケーブル（市販品）は右記のロゴのあるものをお使いください。

HDMI Connector
HDMIケーブル（市販品）
端子カバー
HDMI input
HDMI output（ミニ）
HDMI OUT
HDMIミニ Connector

重要

- 撮影モードではテレビ出力できません。

参考

- カメラ本体側はHDMIミニConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output（出力端子）同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。
- USB/AV端子とHDMI output（出力端子）の両方にケーブルが差し込まれている場合は、HDMI output（出力端子）を優先に出力します。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はステレオになります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

■ HDMI出力の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順:【MENU】→設定タブ→HDMI出力

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式が変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。※
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- "オート"でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

重要

- テレビとカメラがHDMIケーブルで接続された状態では"HDMI出力"の設定は変更できません。いったんカメラからHDMIケーブルを抜いて"HDMI出力"の設定を変更してください。

カメラの画像をDVDレコーダーやビデオデッキに録画する

例として、AVケーブル(別売品)を次のように接続します。

– DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子

– カメラ側:USB/AV接続端子

このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を"🎥のみ"にすれば、動画だけの録画もできます(142ページ)。

DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見方や録画方法については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

再生時のその他の機能（再生機能）

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、112ページをご覧ください。

自動的にページ送りして楽しむ（スライドショー）

操作手順：【▶】（再生）→【MENU】→再生機能タブ→スライドショー

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像：静止画、動画、連写画像 ▣除く全画像：連写画像以外の画像 □のみ：静止画のみ ▣のみ：動画のみ
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 1〜5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1〜30秒、または"最速"を【◀】【▶】で選びます。 1〜30秒を選ぶと、動画は最初から最後まで再生されます。 "最速"を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。

エフェクト	希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。 パターン1〜5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示します。BGMも再生します。 • "パターン2〜4"の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。 • "パターン5"は静止画(連写画像、動画を除く)のみの再生となります。また"間隔"の設定も無効になります。 • 下記の場合は、特殊効果が無効になります。 – 表示画像を"のみ"にした場合 – 間隔を"最速"、"1秒"または、"2秒"にした場合 – 動画の再生の前後 – 連写グループ再生時(パターン1を除く) 切:特殊効果とBGMの再生をしません。

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

使用可能なファイル

- PCM形式（16ビット、モノラル／ステレオ）のWAVファイル
- サンプリング周波数：11.025kHz／22.05kHz／44.1kHz

使用可能なファイル数：9ファイル

ファイル名：SSBGM001.WAV～SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んでも、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する（173、184ページ）

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

---

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク（ドライブ）」として認識します。

- Windows
  ① Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリック
  Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリック
  ②“リムーバブルディスク”をダブルクリック
- Macintosh
  ① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM”フォルダを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
- フォルダについては189ページを参照してください。

5. カメラをパソコンから取りはずす(175、185ページ)

動画から静止画を作成する(モーションプリント)

操作手順:【▶】(再生)→素材にしたい動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→モーションプリント

1. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す

【◀】【▶】を押し続けると、早戻し/早送りができます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

動画をカットする（ムービーカット）

操作手順：【▶】（再生）→カットしたい動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット（削除）できます。

カット（前カット）	選択した場面から前をカットします。
カット（中カット）	選択した場面と場面の間をカットします。
カット（後カット）	選択した場面から後をカットします。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

2. 以下の操作で、カットしたい位置（境界のコマ）を探す

【◀】【▶】	再生中は、再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し
【SET】	一時停止、再生切り替え

カットされる範囲（黄色い部分）

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

カット（前カット）	カットしたい最後の場面（コマ）が決まったら、【▼】を押す
カット（中カット）	• ①カットしたい先頭の場面（コマ）が決まったら、【▼】を押す • ②カットしたい最後の場面（コマ）が決まったら、【▼】を押す
カット（後カット）	カットしたい先頭の場面（コマ）が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。"処理中です　しばらくお待ちください"の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して一時停止し、【▼】を押してカットすることもできます。

画像の明るさを最適化する（ライティング）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ライティング

撮影した画像の明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整します。

+2	"+1"より強く明るさが補正されます。
+1	明るさが補正されます。
キャンセル	明るさの補正は行いません。

参考

- 撮影時にライティング補正をした方が、より良好な結果が得られます(125ページ)。
- 補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
曇天	薄雲〜雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
日陰	ビルや木の陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
電球	電球の雰囲気を消して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(62ページ)。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える（明るさ編集）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→明るさ編集

+2（画像がもっとも明るい）から−2（画像がもっとも暗い）までの5段階から選べます。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

印刷する画像を選ぶ（プリント設定）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定（DPOF）

詳しくは164ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→再生機能タブ→プロテクト

オン	ファイルごとにプロテクトをかけます。 ①【◀】【▶】でプロテクトをかけたいファイルを表示させる ②【▲】【▼】で"オン"を選び、【SET】を押す プロテクトがかかり、"🔑"が表示されます。 ③続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す プロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押します。プロテクトを解除するには手順②で"オフ"を選んで【SET】を押します。
全ファイル オン	すべてのファイルにプロテクトをかけます。 ①【▲】【▼】で"全ファイル　オン"を選び、【SET】を押す ②【MENU】を押す すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で"全ファイル　オフ"を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(202ページ)を行うと、消去されてしまいます。

参考

- 連写グループ表示時にプロテクトを行うと、連写グループ内の画像全てにプロテクトをかけることができます。また、連写グループ内の画像を再生中にプロテクトを行うと、連写グループ内の画像を個別にプロテクトをかけることができます。

■ 連写グループ内の画像ごとにプロテクトする

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んで消去できないようにすることができます。

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

---

2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

---

3. 【◀】【▶】でプロテクトしたい画像を表示させる

---

4. 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、“ ”が表示されます。

- プロテクトを解除するには、“オフ”を選んで【SET】を押します。
- この操作を終えるには“キャンセル”を選んで【SET】を押します。

参考

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(202ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ 連写グループ内のすべての画像をプロテクトする

連写グループ内のすべての画像が消去できないようにすることができます。

1. 連写グループ表示中、または連写グループ内の画像の自動再生中に【MENU】を押す

---

2. 【◀】【▶】で“再生機能”タブを選ぶ

---

3. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプロテクトしたい連写グループを表示させる

5. 【▲】【▼】で"オン"を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、"🔑"が表示されます。

- すべてのファイルのプロテクトを解除するには、"オフ"を選んで【SET】を押します。

6. 【MENU】を押す

参考

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(202ページ)を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する(日時編集)

操作手順: 【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→日時編集

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。
【●】(ムービー)	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

日時を変更した後は【SET】を押して修正結果を確定させます。

参考

- タイムスタンプ機能(196ページ)で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年〜2049年です。

画像を回転させる（回転表示）

**操作手順：【▶】（再生）→静止画または動画を表示→【MENU】→
再生機能タブ→回転表示**

1. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90°左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

参考

- 連写画像はグループ単位で一括して回転されます。連写グループ内の画像を個別に回転することはできません。
- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示では、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は10M/5M/VGAの3種類が選択できます。

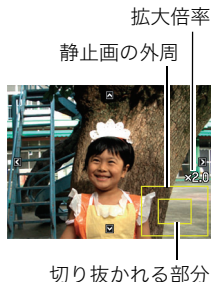
- "3:2"、"16:9"の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて【SET】を押します。

- "3:2"、"16:9"の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

ファイルをコピーする(コピー)

操作手順：【▶】(再生)→静止画または動画を表示→【MENU】→ 再生機能タブ→コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵→カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード→内蔵	カード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。 • 連写グループ画像(135ページ)はコピーできません。 ①【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ ②【▲】【▼】で"コピー"を選び【SET】を押す

参考

• コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。

連写画像をグループ解除する(連写グループ解除)

操作手順：【▶】(再生)→【MENU】→再生機能タブ→連写グループ解除

詳しくは134ページをご覧ください。

連写画像を1枚の静止画にまとめる（連写マルチプリント）

操作手順：【▶】（再生）→素材にしたい連写グループを表示→【MENU】→再生機能タブ→連写マルチプリント

1. 【▲】【▼】で"作成"を選ぶ

- 【◀】【▶】で他の連写グループを選ぶことができます。

---

2. 【SET】を押す

縦5コマ、横6コマの最大30コマの画像（16M（4608×3456））に変換します。

- このカメラで撮影した連写グループ以外は、連写マルチプリントできないか、正しく変換されないことがあります。
- 変換後の静止画の日付は、元の画像を撮影した日付になります。
- 縦方向に再生される連写グループと横方向に再生される連写グループとでは、変換後の画像の配置順と向きが異なります。

連写画像を編集する（連写フレーム編集）

操作手順：【▶】（再生）→【MENU】→再生機能タブ→連写フレーム編集

詳しくは下記をご覧ください。

プリント設定（DPOF）：165ページ
プロテクト：151ページ
コピー：135ページ
消去：132ページ

ダイナミックフォト機能

本機の内蔵メモリーに格納されたキャラクターサンプルを、静止画や動画と合成することにより、貼り付けたキャラクターを動かすことができます(ダイナミックフォト)。

内蔵キャラクター

別の画像

合成後
(ダイナミックフォト)

キャラクターを画像に貼り付ける(ダイナミックフォト)

キャラクターを静止画(パノラマ画像を除く)や動画に貼り付けます。

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→再生機能タブ→ダイナミックフォト

1. 【◀】【▶】で背景の画像を選び、【SET】を押す

- 次の条件を満たす画像のみ、背景の画像として使用することができます。
  - 本機で撮影した静止画や動画
  - 画像サイズが"4:3"のアスペクト比の静止画

2. 【◀】【▶】で内蔵されているキャラクターサンプルの中から貼り付けたいキャラクターを選び、【SET】を押す

3. 動画にキャラクターを貼り付ける場合は、【◀】【▶】でキャラクターを貼り付ける時間帯を設定し、【SET】を押す

埋め込む時間帯

- 合成した動画は、キャラクターを貼り付けた場面から最長で20秒となり、前後は削除されます。ただし、背景の動画が20秒以下の場合は、背景の動画と同じ長さの動画が保存されます。
- 静止画にキャラクターを貼り付ける場合は、手順4に進んでください。

4. ズームレバーでキャラクターの大きさを調整し、【▲】【▼】【◀】【▶】でキャラクターを貼り付ける位置を決める

5. 貼り付ける位置が決まったら、【SET】を押す

キャラクターと別の画像を合成し、貼り付けたキャラクターが動くダイナミックフォトを制作します。

- 静止画に動くキャラクターを貼り付けると、サイズが2M以下の20枚の静止画で構成されたダイナミックフォトとして保存されます。
- 動画にキャラクターを貼り付けると、ダイナミックフォトは動画ファイルとして保存されます。

参考

- 内蔵されているキャラクターサンプルは、消去やフォーマットを行っても消えません。

ダイナミックフォト(合成ファイル)を再生する

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいダイナミックフォトを表示させる

2. ダイナミックフォトを動かしたい場合は、【SET】を押す

ダイナミックフォトが繰り返し再生されます。

- ダイナミックフォトを表示し、約2秒間放置しておくと、自動的に再生されます。

静止画に動くキャラクターを貼り付けたダイナミックフォトを動画に変換する(ムービーへ変換)

静止画に動くキャラクターを貼り付けた場合は、20枚の連写画像(静止画)の状態でカメラに保存されています。この20枚の連写画像を1つの動画ファイルに変換することができます。

操作手順：【▶】(再生)→ダイナミックフォトを表示→【MENU】→再生機能タブ→ムービーへ変換

- 動画はH.264形式となります。
- 動画のサイズは、640×480 pixelsとなります。

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

お店で　プリントする※

画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。

プリンターで　プリントする※

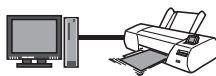
メモリーカードスロット付のプリンターで印刷する

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。

カメラを直接プリンターにつないで印刷する

PictBridgeに対応しているプリンターでプリントします。

パソコンを使って　プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。

※プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→164ページ

カメラをPictBridge対応のプリンターにつないでプリントする

付属のUSBケーブルでPictBridge対応のプリンターとカメラを接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

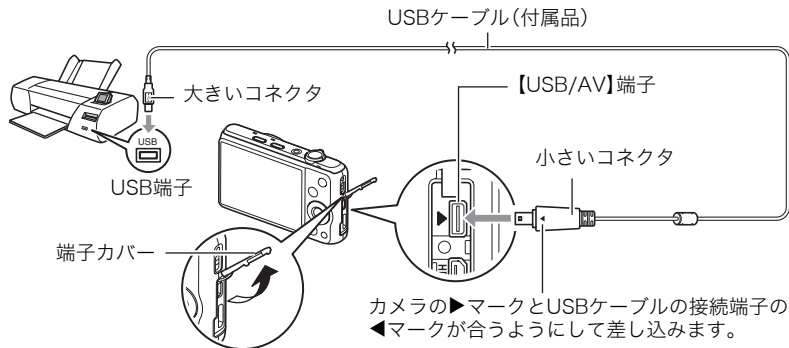
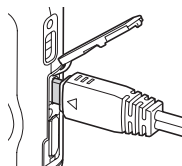
■ 接続前の設定

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"PTP(PictBridge)"を選び、【SET】を押す

■ プリンターとの接続

付属のUSBケーブルでカメラとプリンターのUSB端子を接続します。

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。プリンターは、プリンターの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

■ プリントする

1. プリンターの電源を入れ、印刷用紙をセットする

---

2. カメラの電源を入れる

プリントメニュー画面が表示されます。

---

3. 【▲】【▼】で"用紙サイズ"を選び、【▶】を押す

---

4. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次のとおりです。
  L判、2L判、はがき、A4、Letter、プリンタで設定
- "プリンタで設定"を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

5. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント　：1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント：複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能（164ページ）で設定した画像がプリントされます。

- 日付印刷の有無を切り替えるには、【●】（ムービー）を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされます。

6. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順5から同様の操作を行ってください。

7. プリントが終了したらカメラの電源を切り、カメラとUSBケーブルをはずす

プリントする画像や枚数を指定しておく(DPOF)

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順：【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)→選択画像

1. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

2. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1〜2を繰り返してください。

3. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定（DPOF）→全画像

1. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 連写グループ内のすべての画像も指定した枚数で印刷されます。
- 日付をプリントしたい場合は、【●】（ムービー）を押して日付印刷を“あり”にします。

2. 【SET】を押す

参考

- 連写グループ内の画像を再生中にプリント設定を行うと、その連写グループ全ての画像、またはその連写グループ内の画像を個別にプリントの枚数を指定することができます。

■ 連写グループ内の画像ごとにプリント枚数を指定する

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んでプリントする枚数を指定することができます。

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定（DPOF）”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】（ムービー）を押して日付印刷を“あり”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順4～5を繰り返してください。

6. 【SET】を押す

■ 連写グループ内のすべての画像に同じプリント指定をする

連写グループ内のすべての画像に同じプリント指定をすることができます。

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定（DPOF）”を選び【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全フレーム”を選び【SET】を押す

4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】（ムービー）を押して日付印刷を“あり”にします。

5. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで設定する	DPOF機能で設定する(164ページ) 印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する(196ページ) • 撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます(写し込まれた日付は消去できません)。 • タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで設定する	市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする
お店に依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

■ 本機の対応規格

- PictBridge
  カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。本製品はPictBridge対応プリンターに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。

- PRINT Image Matching III
  PRINT Image Matching III対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

- Exif Print
  Exif Printは、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る	手動でパソコンに保存して見る（USB接続）（172、183ページ）。
パソコンに保存した画像をカメラに戻す	画像以外にも、パソコンに表示されている画面をカメラに転送できます（Photo Transport※）（180ページ）。
動画を再生・編集する	• 動画を再生することができます（177、187ページ）。 再生ソフトは、使用するパソコンの動作環境に合わせてください。 • 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。

※Windows専用です。

カメラとパソコン、ソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」（170ページ）
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」（183ページ）

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP (SP3)	インストールする必要はありません。	172
動画の再生	Windows 7	インストールする必要はありません。 • パソコンにすでにインストールされているWindows Media Player 12で再生することができます。	177
	Windows Vista／ Windows XP (SP3)	QuickTime 7で再生することができます。 • 必要に応じて、ダウンロードしてご利用ください。	
動画の編集	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP (SP3)	ー • 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。	ー
YouTubeサイトへの動画のアップロード	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP(SP3)	**YouTube Uploader for CASIO**※ • Webサイトからダウンロードしてください。	178

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
カメラへの画像の転送	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP (SP3)	**Photo Transport 1.0**※ • Webサイトからダウンロードしてください。	180

※YouTube Uploader for CASIOおよびPhoto Transportは、64bitのWindows OSには対応していません。

■ ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによって、パソコンに必要な動作環境が異なります。各ソフトの動作環境については「ソフト使用時の動作環境について(213ページ)」をご覧ください。

■ ソフトをWindowsで使用する場合のご注意

- ソフトは、管理者(Administrator)権限以外は使用できません。
- 自作パソコンでのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. **カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する**

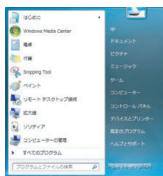
カメラの電源が自動的に入り、電池の充電も始まります(25ページ)。

- パソコンの種類や接続環境により、カメラの電源が自動的に入らない場合があります。その場合は、【ON/OFF】(電源)を押してカメラの電源を入れてください。

- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。

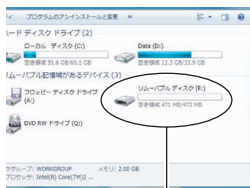
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

5. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする

Windows 7

Windows XP

6. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

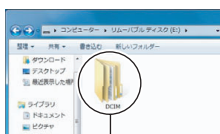
- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

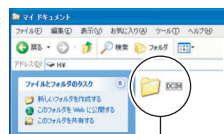
Windows 7

リムーバブルディスク

Windows XP

リムーバブルディスク

7. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする

Windows 7

DCIM

Windows XP

DCIM

8. メニューの“コピー”をクリックする

9. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

10. Windows 7：“ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows Vista：“ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows XP：“マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

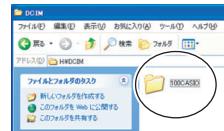
“DCIM”フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が“ドキュメント”（Windows 7／Windows Vista）または“マイドキュメント”（Windows XP）フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

11. コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす

後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

2. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(189ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。

動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- Windows 7では、Windows Media Player 12で再生することができます。
- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。
  http://www.apple.com/jp/quicktime/download/

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS	：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP3）
CPU	：画質FHDの場合：Core 2 Duo 3.0GHz以上 画質STD、HSの場合：Pentium 4 3.2GHz以上
必要なソフトウェア	：QuickTime 7（Windows 7の場合は不要です。）

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  - 動画の画質を"STD"に設定して撮影する。
  - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、AVケーブル(別売品)を使って映像入力端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

YouTubeに動画をアップロードする

ベストショットの"YouTube"シーンで撮影した動画ファイルを簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、YouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールしてください。

■ YouTubeとは

YouTube, LLC社が運営する動画サイトです。YouTubeでは、動画の閲覧や動画をアップロードすることができます。

■ YouTube Uploader for CASIOをインストールする

カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト内のサポートページ
(http://casio.jp/support/dc/)より、YouTube Uploader for CASIOのインストーラーをダウンロードしてください。ダウンロードしたインストーラーをダブルクリックして、画面の指示に従ってインストールしてください。

- ソフトのインストールの条件や動作環境については、213ページをご覧ください。

■ 動画ファイルをYouTubeにアップロードする

- YouTube Uploader for CASIOを使用する前にYouTubeのWebサイト（http://www.youtube.com/）でユーザー会員登録をしてください。
- 著作権（著作隣接権を含みます）により保護されているビデオは、ご自身が権利を有しているか、関係する権利者から許可を得ている場合を除いてアップロードしないでください。
- アップロードできるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、再生時間が15分までです。

1. ベストショットの"YouTube"シーンで動画を撮影する（84ページ）

---

2. あらかじめパソコンをネットワークに接続しておく

---

3. カメラをパソコンに接続する（172ページ）

---

4. カメラの電源を入れる

YouTube Uploader for CASIOが自動的に起動します。

- 初めて起動したときは、YouTubeのユーザーID、パスワード、お使いのネットワークの環境を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

---

5. 画面左側に動画ファイルをアップロードするのに必要なタイトル、カテゴリー等が表示されるので、動画ファイルをアップロードする際に必要な情報を入力する

---

6. 画面右側に動画ファイルのリストが表示されるので、アップロードしたい動画ファイルのチェックボックスにチェックを入れる

7. すべての準備が整ったら、[アップロード]ボタンをクリックする

動画ファイルがWebサイトに転送されます。

- ファイル転送が終わったら、[終了]ボタンをクリックし、アプリケーションを終了してください。

パソコンに保存した画像をカメラに戻す

パソコンに取り込んだ画像をもう一度カメラへ戻すには、Photo Transportをパソコンにインストールしてください。

■ Photo Transportをインストールする

カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト内のサポートページ（http://casio.jp/support/dc/）より、Photo Transportのインストーラーをダウンロードしてください。ダウンロードしたインストーラーをダブルクリックして、画面の指示に従ってインストールしてください。

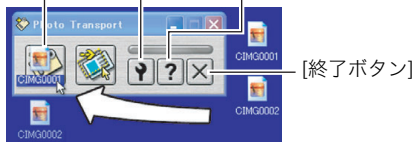
- ソフトのインストールの条件や動作環境については、213ページをご覧ください。

■ 画像をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する（172ページ）

2. "スタート"→"すべてのプログラム"→"CASIO"→"Photo Transport"の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画像ファイルを[転送ボタン]にドラッグアンドドロップする

4. 画面の指示に従って操作する

画像ファイルがカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送するデータについて

- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
  .jpg、.jpeg、.jpe、.bmp(.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます)
- 画像によっては一部転送できない場合があります。
- 動画は転送できません。

■ パソコンの画面をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する(172ページ)

2. "スタート"→"すべてのプログラム"→"CASIO"→"Photo Transport"の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画面を表示する

4. [キャプチャーボタン]をクリックする

[キャプチャーボタン]

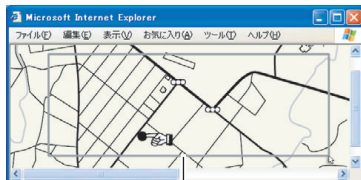
5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に"↖"(矢印)を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらします。

6. 画面の指示に従って操作する

転送される範囲

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。
- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

■ 設定/ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

Macintoshを利用する

Mac OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。	183
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS X	一部のMac製品本体に付属のiPhotoが利用できます。	－
動画の再生	OS X	OS X 10.4.11以降で、QuickTime 7以降がインストールされていれば再生できます。	187

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0ではご使用できません。10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6、10.7のみで使用できます（OS標準のUSBドライバを使用）。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

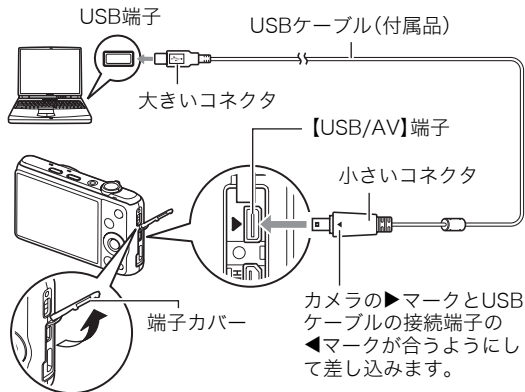
1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

カメラの電源が自動的に入り、電池の充電も始まります(25ページ)。

- パソコンの種類や接続環境により、カメラの電源が自動的に入らない場合があります。その場合は、【ON/OFF】(電源)を押してカメラの電源を入れてください。

- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

---

5. 表示されたドライブをダブルクリックする

カメラの後面ランプが緑色またはオレンジ色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

---

6. “DCIM”フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

---

7. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

---

8. カメラをパソコンからはずす

後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

---

2. "DCIM"フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

---

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

---

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(189ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　　　　　　　　：画質FHDの場合：Mac OS X 10.4.11以降
　　　　　　　　　　画質STD、HSの場合：Mac OS X 10.3.9以降
必要なソフトウェア：QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

– STD動画で撮影する
– 最新のQuickTimeにバージョンアップする
– 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、AVケーブル（別売品）を使って映像入力端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(189ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	"CIMG0001"から"CIMG9999"までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁)　拡張子
フォルダ	"100CASIO"から"999CASIO"までで、最大900のフォルダが作成されます。 • ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する"YouTube"のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO 連番(3桁)

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、15、16ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダ構造

*1 ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100YOUTB」となります。

*2 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダ、ファイルです。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は"DCIM"フォルダごと保存してください。その際"DCIM"フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で"DCIM"に戻しておいてください。本機では"DCIM"以外の名前のフォルダは認識されません。"DCIM"フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が189ページのフォルダ構造のとおりである必要があります。
- メモリーカードはPCカードアダプターやメモリーカードリーダー／ライターで直接パソコンに読み込むことができます。

その他の設定について

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、112ページをご覧ください。

省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす(エコモード)

操作手順:【MENU】→設定タブ→エコモード

液晶モニターの明るさを低くするなど、一部の機能を低い電力で動作するように切り替えることにより、電池の消耗を抑えることができます。

"入"を選ぶとエコモードに入り、画面上に"ECO"が表示されます。エコモードは撮影モードが"オート"のときに省電力の効果が高くなります。撮影モードは"オート"に設定することをおすすめします。

参考

- オートパワーオフ機能やスリープ機能と組み合わせることで、さらに電力の消費を抑えることができます(198、198ページ)。

液晶モニターの明るさを変える（液晶設定）

操作手順：【MENU】→設定タブ→液晶設定

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	“＋1”に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。“0”に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
−1	夜間や屋内などの暗い場所で使用する場合の設定です。

- “＋2”または“＋1”に設定した状態で、“エコモード”（191ページ）を“入”にすると、液晶設定は“0”に固定されます。

画像縦横方向を感知し自動で回転して表示する（縦横自動回転）

操作手順：【MENU】→設定タブ→縦横自動回転

縦撮りか横撮りかの撮影状況をカメラが自動で感知し、再生時にその縦横方向に合わせて画像を表示します。静止画のみに対応し、動画には対応していません。

入	縦横自動回転が作動します。
切	縦横自動回転が作動しません。

カメラの音を設定する（操作音）

操作手順：【MENU】→設定タブ→操作音

起動音	音色を設定します。 サウンド1～5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。 切：音は鳴りません。
ハーフシャッター	
シャッター	
操作音	
🔊操作音	操作音の音量を設定します。ビデオ出力時（137ページ）の音量にも反映されます。
🔊再生音	動画の音量を設定します。ビデオ出力時（137ページ）の音量には反映されません。

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

画像の連番のカウント方法を切り替える(ファイルNo.)

操作手順:【MENU】→設定タブ→ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番(188ページ)のカウント方法を切り替えます。

メモリする	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。
メモリしない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

画像保存用のフォルダを作成する(フォルダ作成)

操作手順:【MENU】→設定タブ→フォルダ作成

フォルダ作成	新しい番号のフォルダを作ります(188ページ)。次回撮影時から、このフォルダにファイルが保存されます。
キャンセル	フォルダを作成しません。

- ベストショットの"YouTube"のシーンで撮影したファイルは専用フォルダに保存されるため、この操作で作成したフォルダにファイルは保存されません。
- フォルダ内のファイルをすべて消去すると、作成したフォルダも削除されます。

海外旅行先での時刻を設定する（ワールドタイム）

操作手順：【MENU】→設定タブ→ワールドタイム

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。

1. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す

- 通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは“自宅”を選びます。

---

2. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す

- “訪問先”の設定でサマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します（サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです）。

---

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で地域を選び、【SET】を押す

---

4. 【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す

---

5. 【SET】を押す

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で“自宅”を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください（196ページ）。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2012年7月10日 午後1時25分

日付	2012/7/10
日付+時刻	2012/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントすることができます(167ページ)。
- 写し込む内容は、日時設定(196ページ)と表示スタイルの設定(197ページ)に従って写し込みます。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順:【MENU】→設定タブ→日時設定

日時を変更した後は、"決定"を選び【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。
【●】(ムービー)	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

- 入力できる日付は、2001年~2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(195ページ)を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順:【MENU】→設定タブ→表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例)2012年7月10日

年/月/日	12/7/10
日/月/年	10/7/12
月/日/年	7/10/12

- 操作パネル上の日付の表示(47ページ)も、下記のように切り替えることができます。
  "年/月/日"、"月/日/年"を選んだ場合:月/日の順
  "日/月/年"を選んだ場合:日/月の順

表示言語を切り替える(Language)

操作手順:【MENU】→設定タブ→Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

①右側のタブを選ぶ
②「Language」の項目を選ぶ
③「日本語」を選ぶ

電池の消耗を抑える(スリープ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消え、後面ランプが緑色に点灯します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値:30秒/1分/2分/切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
  - 再生モード
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - 動画撮影・再生中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消耗を抑える(オートパワーオフ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→オートパワーオフ

電池消耗を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値:2分/5分/10分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - スライドショー中
  - 連写グループ画像再生中
  - 動画撮影・再生中

【📷】の動作を設定する(REC)

操作手順:【MENU】→設定タブ→REC

パワーオン	**【📷】**(撮影)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	**【📷】**(撮影)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	**【📷】**(撮影)を押しても、電源は入りません。

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、撮影モードで**【📷】**(撮影)を押した場合に電源が切れます。

画像の消去操作ができないようにする(🗑禁止)

操作手順:【MENU】→設定タブ→🗑禁止

【▼】(🗑⚡)を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。
誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、“入”にしてください。

- フォーマット(202ページ)すると、“🗑禁止”を“入”に設定していても、画像は消去されます。

USBの通信方法を切り替える(USB)

操作手順:【MENU】→設定タブ→USB

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。

Mass Storage	パソコンを接続する場合に選びます(172、184ページ)。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時はこちらを選んでください。
PTP (PictBridge)	PictBridge対応のプリンターを接続する場合に選びます(161ページ)。

画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する(ビデオ出力)

操作手順:【MENU】→設定タブ→ビデオ出力

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。

NTSC	日本のほか、アメリカなどでも使用されています。
PAL	ヨーロッパなどで使用されています。

4:3	通常の画面比率のテレビ用
16:9	ワイド画面のテレビ用

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせて設定してください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

HDMI端子の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順:【MENU】→設定タブ→HDMI出力

詳しくは139ページをご覧ください。

撮影した静止画を起動画面に表示させる(起動画面)

操作手順:【MENU】→設定タブ→起動画面

起動画面にしたい静止画を表示させて"入"を選びます。

- 【▶】(再生)を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。
- 起動画面には、静止画の他にカメラに内蔵されている起動画面用の専用画像が設定できます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット(202ページ)すると消去されます。
- 起動画面の設定では、連写グループは先頭の静止画のみ選択が可能です。連写グループ内の画像を起動画面に設定する場合は、あらかじめ連写グループを解除するか、または連写フレーム編集で連写グループ内の画像をグループ外にコピーしてから行ってください。

メモリーをフォーマットする(フォーマット)

操作手順:【MENU】→設定タブ→フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
  - ベストショットでカスタム登録した内容
  - 起動画面に設定した画像
- メモリーカードをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
- フォーマットすると、"🗑禁止"(199ページ)を"入"に設定していても、画像は消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す(リセット)

操作手順:【MENU】→設定タブ→リセット

購入直後の設定(初期値)については、214ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、ビデオ出力

付録

使用上のご注意

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると画像データが壊れたり、カメラ本体が動作不能になったりする恐れがあります。

- カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
- 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
- 通信中にUSBケーブルがはずれた
- 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた

  ※充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。
- その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（225ページ）。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲：0～40℃
- 使用可能湿度範囲：10～85％（結露しないこと）
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
  - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて（リサイクルのお願い）

Li-ion 00

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.com/

■ 使用済み電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ USB-ACアダプター(AD-C53U)ご使用時のご注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。

●電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出・断線など)、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、電源コードをコンセントからはずしてください。
- USB-ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

　この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- EXILIM、Photo Transport、ダイナミックフォト、Dynamic PhotoおよびYouTube Uploader for CASIOは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

本製品のYouTubeアップロード機能は、YouTube, LLC社からのライセンスの元に搭載されています。ただし、本製品がYouTubeアップロード機能を備えることが、YouTube, LLC社が本製品を保証または推薦することを意味するわけではありません。

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が10℃～35℃の温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが働いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大6時間を越えると、タイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。
また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合
   USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。
2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合
   500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。
USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる場合は、電池の不良が考えられます。別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 10℃〜35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(204ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所(20℃以下)で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター(AD-C53U)はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によって電源コードのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池(NP-110)をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)でご購入ください(e-カシオ: http://www.e-casio.co.jp/)。

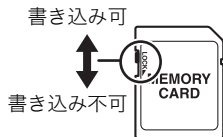
メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については31ページをご覧ください。

■ メモリーカードについて

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。

書き込み可
LOCK
MEMORY CARD
書き込み不可

- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作（202ページ）で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電気的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア（CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にバックアップして控えをとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、"●REC"が黄色になります。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(http://casio.jp/support/dc/)をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(202ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによってパソコンに必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させるために必要な最低限の性能です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上の性能を必要とします。

●Windows用

YouTube Uploader for CASIO

OS　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP3）
その他：OSが正常に動作すること
　　　　YouTubeサイトにより動画が再生できること
　　　　YouTubeサイトに動画がアップロードできること

Photo Transport 1.0

OS　　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP3）
メモリー：64MB以上
HDD　　：約2MB以上

リセット操作でリセットされる内容

【MENU】を押したときに表示されるメニューで、リセット操作(202ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。
ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- オート撮影モード(37ページ)をプレミアムオート PROに設定すると、一部のメニューは使用できなくなります。

■ 撮影モード

“撮影設定”タブ

項目	初期値
超解像ズーム	シングル
フォーカス方式	AF (オートフォーカス)
セルフタイマー	切
手ブレ補正	入
AFエリア	スポット
AF補助光	入
顔検出	切
コンティニュアスAF	切
デジタルズーム	入
風音低減	切
左右キー設定	切
グリッド表示	切
撮影レビュー	切

項目	初期値
アイコンガイド	入
モードメモリ	ベストショット:切 フラッシュ:入 フォーカス方式:切 ISO感度:切 ホワイトバランス:切 EVシフト:切 AFエリア:入 測光方式:切 セルフタイマー:切 フラッシュ光量:切 超解像ズーム:入 デジタルズーム:入 MF位置:切 ズーム位置:切

“画質設定”タブ

サイズ	16M
画質(静止画)	標準-N
画質(動画)	FHD
EVシフト	0.0
ISO感度	オート
ISO感度上限	オート
ホワイトバランス	オート

測光方式	マルチ
ライティング	入
フラッシュ光量	0
シャープネス	0
彩度	0
コントラスト	0

“設定”タブ

エコモード	切
液晶設定	オート
縦横自動回転	入
操作音	起動音:サウンド1 ハーフシャッター:サウンド1 シャッター:サウンド1 操作音:サウンド1 操作音:■■■□□□□ 再生音:■■■□□□□
ファイルNo.	メモリする
フォルダ作成	ー
ワールドタイム	ー
タイムスタンプ	切

日時設定	ー
表示スタイル	ー
Language	ー
スリープ	1分
オートパワーオフ	5分
REC	切
禁止	切
USB	Mass Storage
ビデオ出力	ー
HDMI出力	オート
起動画面	切
フォーマット	ー
リセット	ー

■ 再生モード

“再生機能”タブ

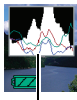
スライドショー	表示画像:全画像／ 時間:30分／ 間隔:3秒／ エフェクト:パターン1
ダイナミックフォト	―
ムービーへ変換	―
モーションプリント	作成
ムービーカット	―
ライティング	―
ホワイトバランス	―
明るさ編集	―

プリント設定(DPOF)	―
プロテクト	―
日時編集	―
回転表示	―
リサイズ	―
トリミング	―
コピー	―
連写グループ解除	―
連写マルチプリント	―
連写フレーム編集	―

“設定”タブ

- 再生モードの“設定”タブの内容は、撮影モードの“設定”タブと同じです。

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された静止画のヒストグラムを見ることができます。

ヒストグラム

参考

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムでチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- ハイスピード動画の撮影時は、ヒストグラムは表示されません。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)すると、ヒストグラムを左右に移動させることができます。グラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されるので、色ごとのオーバー・アンダー状況が把握することができます。

典型的なヒストグラムの例		
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。	全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。	全体的に適切な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(21ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(22ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電池(NP-110)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(198ページ)。電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(22ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、【📷】(撮影)を押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) "メモリがいっぱいです"と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。

現象	考えられる原因と対処
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(46ページ)。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください(56ページ)。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正の撮影状態に設定してください(115ページ)。または、三脚を使用してください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が“”(発光禁止)になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(52ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(22ページ)。 3) ベストショットでフラッシュが“”(発光禁止)のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(52ページ)、撮影したいシーンを選び直して(87ページ)ください。
液晶モニター上に“”(発光禁止)が赤く点灯し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(56ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに“”(マクロ)または“”(スーパーマクロ)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(55ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスになっています。接写撮影をする場合は“”(マクロ)または“”(スーパーマクロ)にしてください(55ページ)。

現象	考えられる原因と対処
画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“ ”(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(52ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影でライティング機能(125ページ)を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 4) 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。その場合はすずしい環境で撮影していただくか、カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからご使用ください。
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください(29ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(52ページ)。または、EVシフトを+側に調整してください(64ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(87ページ)のシーンを下記のように設定して撮影してください。 • 夜景だけ撮影したいとき → “HS夜景” • 夜景と人物を撮影したとき → “HS夜景と人物”
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(52ページ)。または、EVシフトを+側に調整してください(64ページ)。

現象	考えられる原因と対処
デジタルズームの倍率が最大値まで上がらない。	1) デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください(118ページ)。 2) “超解像ズーム”が“シングル”になっている場合は最大値まで上がりません。“切”にしてください(70ページ)。 3) 静止画の画像サイズが“VGA”になっている場合は最大値まで上がりません。他の設定に変更してください(49ページ)。
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(204ページ)。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
動画撮影が勝手に終了した。	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの温度を下げてからご使用ください。
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像編集(ホワイトバランス、明るさ編集、リサイズ、トリミング、回転)ができない。	次の画像は編集できません。 • モーションプリント機能で作成した画像 • 連写グループ内の画像 • 動画 • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像

現象	考えられる原因と対処
消去について	
ファイルを消去することができない。	1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(150ページ)。 2) “🗑禁止”の設定が“入”になっている可能性があります。設定を“切”にしてください(199ページ)。
その他	
画面に表示される日時が正しくない。または、記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(196ページ)。
画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(197ページ)。
パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) USB通信の方法が正しく設定されていない可能性があります。USB通信の方法を接続する機器に合わせて正しく設定してください(172、184ページ)。 3) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 4) USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。

現象	考えられる原因と対処
カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗した状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(30、196ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(202ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	電池を入れ、時計を設定し直してください(30ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。 • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

<table>
<tr><td>圧縮に失敗しました</td><td>画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。ズーム操作などで構図を変えて撮影しなおしてください。</td></tr>
<tr><td>カードが異常です</td><td>• メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(202ページ)。

重要
• フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。

• Eye-Fiカードを使用していませんか。本機ではEye-Fiカードは使用できません。</td></tr>
<tr><td>カードがフォーマットされていません</td><td>メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(202ページ)。</td></tr>
<tr><td>カードがロックされています</td><td>SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。

LOCKスイッチ
LOCK
MEMORY CARD</td></tr>
<tr><td>この機能は使用できません</td><td>機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。</td></tr>
</table>

このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットで「SCENE」フォルダの中にファイルが999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合に表示されます(90ページ)。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの"表示画面"で設定した画像が見つからないときに表示されます。スライドショーの設定をし直してください(142ページ)。
接続エラー	プリンター接続時に、カメラのUSB設定がプリンターのUSB接続方式と合っていない場合に表示されます(161ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットで登録できる画像がないときに表示されます。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(43ページ)。
プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(164ページ)。

プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 • プリンター電源オフ、 • プリンター本体のエラー、など
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。パスト連写撮影時は、過去の画像を全て記録できる容量がメモリーカードにない場合表示されます。不要なファイルを消去してください(43ページ)。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンターの用紙が切れている場合に表示されます。
レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
レンズエラー2	手ブレ補正ユニットが故障している可能性があります。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

画像サイズ (pixels)	画質	画像ファイルサイズ	内蔵メモリー※1での撮影枚数	SDメモリーカード※2での撮影枚数
16M (4608×3456)	高精細-F	10.71MB	3	1072
	標　準-N	5.57MB	5	1654
3:2 (4608×3072)	高精細-F	9.43MB	4	1214
	標　準-N	4.92MB	6	1873
16:9 (4608×2592)	高精細-F	7.83MB	5	1466
	標　準-N	4.1MB	7	2221
10M (3648×2736)	高精細-F	6.4MB	6	1787
	標　準-N	3.38MB	9	2728
5M (2560×1920)	高精細-F	2.99MB	10	2990
	標　準-N	1.72MB	14	4283
3M (2048×1536)	高精細-F	2.0MB	15	4669
	標　準-N	1.25MB	22	6533
VGA (640×480)	高精細-F	430KB	67	19683
	標　準-N	290KB	91	26809

動画

設定内容 (pixels)／(音声)	1ファイル最大サイズ	転送レート (フレームレート)	内蔵メモリー※1での撮影枚数	SDメモリーカード※2での撮影時間	1分録画時のファイルサイズ
FHD(1920×1080) (ステレオ)	1回の撮影で最大4GBまで。	14.2メガビット／秒 (30フレーム／秒)	27秒	35分59秒	106.5MB
HD(1280×720) (ステレオ)※4		10.9メガビット／秒 (15フレーム／秒)	35秒	46分54秒	81.8MB
STD(640×480) (ステレオ)		3.9メガビット／秒 (30フレーム／秒)	1分41秒	2時間12分54秒	29.3MB
HS480(224×160) (無し)		40.0メガビット／秒 (480フレーム／秒)	9秒	13分2秒	300.0MB
HS240(512×384) (無し)		40.0メガビット／秒 (240フレーム／秒)	9秒	12分58秒	300.0MB
HS120(640×480) (無し)		40.0メガビット／秒 (120フレーム／秒)	9秒	12分55秒	300.0MB
HS30-240 (512×384) (30fps時のみ有り)		5.4メガビット／秒 (30フレーム／秒) 40.4メガビット／秒 (240フレーム／秒)	1分13秒※3	1時間36分54秒※3	40.5MB※3
HS30-120 (640×480) (30fps時のみ有り)		10.4メガビット／秒 (30フレーム／秒) 40.4メガビット／秒 (120フレーム／秒)	38秒※3	49分57秒※3	78.0MB※3

設定内容 （pixels）／（音声）	1ファイル 最大サイズ	転送レート （フレームレート）	内蔵メモリー※1 での撮影時間	メモリーカード （1回当たりの最 大撮影可能時間）
YouTube（HS480） （224×160）（無し）	1回の撮影で 最大2048MB まで。 ただし、 再生時間が 15分まで。	40.0メガビット／秒 （480フレーム／秒）	9秒	56秒
YouTube（HS240） （512×384）（無し）		40.0メガビット／秒 （240フレーム／秒）	9秒	1分52秒
YouTube（HS120） （640×480）（無し）		40.0メガビット／秒 （120フレーム／秒）	9秒	3分45秒
YouTube（HS30-240） （512×384） （30fps時のみ有り）		5.4メガビット／秒 （30フレーム／秒） 40.4メガビット／秒 （240フレーム／秒）	1分13秒※3	15分※3
YouTube（HS30-120） （640×480） （30fps時のみ有り）		10.4メガビット／秒 （30フレーム／秒） 40.4メガビット／秒 （120フレーム／秒）	38秒※3	15分※3
YouTube（FHD） （1920×1080） （ステレオ）		14.2メガビット／秒 （30フレーム／秒）	27秒	15分
YouTube（STD） （640×480） （ステレオ）		3.9メガビット／秒 （30フレーム／秒）	1分41秒	15分

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量（約52.2MB）の場合です。

※2 16GB SDHCメモリーカード（SanDisk Corporation製）の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数は異なる場合があります。

※3 30fpsで撮影した場合の撮影可能時間になります。撮影中、30fpsを120fpsまたは240fpsに切り替えると撮影可能時間は短くなります。

※4 “HDR アート”（104ページ）での撮影時のみ“FHD”の代わりに選択できます。

- 撮影枚数／撮影時間は目安（おおよその数値）であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ／転送レートは目安（おおよその数値）であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。例えば240fpsのハイスピード動画撮影を10秒間行うと再生時間は80秒になります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画：JPEG（Exif Ver.2.3／DCF2.0準拠／DPOF対応） 動画：MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声（ステレオ）
記録媒体	内蔵フラッシュメモリー（画像記録エリア：52.2MB※） SD／SDHC／SDXC ※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画：16M（4608×3456）／3:2（4608×3072）／16:9（4608×2592）／10M（3648×2736）／5M（2560×1920）／3M（2048×1536）／VGA（640×480） 動画：FHD（1920×1080 30fps）／HD（1280×720 15fps）（HDRアートムービー撮影時のみ）／STD（640×480 30fps）／HS480（224×160 480fps）／HS240（512×384 240fps）／HS120（640×480 120fps）／HS30-240（512×384 30-240fps切替式）／HS30-120（640×480 30-120fps切替式）
有効画素数	1610万画素
撮像素子	サイズ：1/2.3型正方画素高速CMOS 総画素数：1679万画素
レンズ／焦点距離（静止画）	F3.3（W）－5.9（T）/f＝4.4〜35.2mm（35mmフィルム換算25〜200mm相当）
ズーム	光学ズーム8倍、超解像ズーム併用時12倍、プレミアムズーム（マルチ超解像ズーム）併用時16倍 デジタルズーム4倍 HDズーム／デジタルズーム併用時最大127.5倍（VGAサイズ）
フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス • フォーカス方式：オートフォーカス／マクロ／スーパーマクロ／マニュアルフォーカス選択可能 • AFエリア：インテリジェント／スポット／マルチ／追尾選択可能、AF補助光付き
撮影距離範囲（静止画）（レンズ先端から）	オートフォーカス：約5cm〜∞（W端） マクロ：約2cm〜約50cm（W端から7段ズーム時） スーパーマクロ：約2cm〜 約50cm マニュアルフォーカス：約5cm〜∞（W端） ※ 光学ズームにより、撮影距離は変化します。
測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
露出制御	プログラムAE

露出補正	－2.0EV～＋2.0EV (1/3EVステップ)
シャッター方式	CMOS電子シャッター／ メカシャッター併用
シャッタースピード	静止画(オート):1/4～1/2000秒 静止画(プレミアムオート PRO): 4～1/10000秒 ※ カメラの設定により異なる場合があります。
絞り	F3.3(W)～F8.0(W) (NDフィルター) ※ 光学ズームにより、絞り値は変化します。
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／ N昼白色／D昼光色／電球／ マニュアルホワイトバランス
感度設定(標準出力感度)	静止画:オート／ISO80／ ISO100／ISO200／ISO400／ ISO800／ISO1600／ISO3200 相当 動画:オート
フラッシュモード	フラッシュオート／発光禁止／ 強制発光／赤目軽減機能
フラッシュ撮影範囲(ISO感度オート時)	約0.4～約3.8m(W端) 約0.8～約2.1m(T端) ※ 光学ズームにより範囲は変化します。
フラッシュ光量調整	－2、－1、0、＋1、＋2
フラッシュ充電時間	約5秒
画像モニター	3.0型TFTカラー液晶 (高性能クリア液晶) 460,800(960×480)ドット
外部接続端子	USB端子(Hi-Speed USB準拠／ USB充電対応)／AV出力端子 (NTSC/PAL) HDMI output(ミニ)
マイク	ステレオ
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電池 (NP-110)×1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数(CIPA)※1	約335枚 (エコモード:切 (工場出荷時の初期設定))
	約405枚 (エコモード:入)
連続再生時間(静止画)※2	約4時間
動画連続撮影時間(ハイスピード動画(HS240))※3	約1時間55分
動画連続撮影時間(FHD動画)※3	約1時間45分

- 使用電池:NP-110(定格容量:1200mAh)
- 記録メディア:16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)
- 測定条件

※1 撮影枚数(CIPA)
CIPA(カメラ映像機器工業会)規準に準ずる
温度(23℃)、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光(2枚に1回)、10回撮影に1度電源を切/入操作

※2 連続再生時間
温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り

※3 動画連続撮影時間は動画を10分撮影毎に、ファイルを全消去した場合の動作時間

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカス、高速連写の使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力	DC3.7V 約3.3W
外形寸法	幅99.9mm×高さ59.0mm×奥行き25.7mm (突起部除く奥行き21.6mm)
質量	166g (電池およびメモリーカード※含む) 139g (電池およびメモリーカード除く) ※ 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合

■ リチウムイオン充電池 (NP-110)

定格電圧	3.7V
定格容量	1200mAh
使用周囲温度	0～40℃
外形寸法	幅37.5mm×高さ44.9mm×奥行き7.0mm（突起部除く）
質量	約25g

■ USB-ACアダプター (AD-C53U)

入力電源	AC100-240V 50/60Hz 100mA
出力電源	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5～35℃
サイズ	幅53mm×高さ21mm×奥行き45mm（突起部除く）
質量	約37g

別売品

- 充電器 BC-110L
- リチウムイオン充電池 NP-110
- USB-ACアダプター AD-C53U
- USBケーブル EMC-6U
- AVケーブル EMC-8A
- ソフトケース ESC-320
- ネックストラップ ENS-2

別売品は、お買い求めの販売店、またはカシオ・オンラインショッピングサイト（e-カシオ）にご用命ください。
e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトでもご覧になることができます。
http://casio.jp/dc/

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ